

第二十五類 土地 道路橋梁

○土地

○屯田兵土地給與規則 明治二十三年九月
法律第七十九號

朕屯田兵土地給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵土地給與規則

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其ノ下土ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下土ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス

第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス

公有財産ノ管理利用並ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開

墾セサル部分ハ沒収ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒収ス

第七條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其ノ滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十一年マテニ召募シタル者ニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

○官ニ屬スル公有水面埋立ノ出願免許方

明治二十三年十月内務省訓令第三十六號

北海道廳 府縣

第一條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テシテ出願スル者アルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ然後技術者ヲシテ調査セシメ第二條以下ニ規定シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ

第二條 公有水面埋立ノ命令書ニハ左ノ條項ヲ記載ス可シ

- 一 出願人ノ住所姓名
- 一 埋立ノ位置並區域
- 一 埋立ノ目的
- 一 埋立ノ方法
- 一 著手ノ期限
- 一 成功ノ期限
- 一 既ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其成功ノ認可ヲ與フルマテノ間ハ公害ヲ生シ若クハ之ヲ發見スルトキハ地方長官ハ何時ニテモ無償ニテ命令書ノ條項ヲ改メ得ルコト
- 一 著手ノ期限ニ至テ著手セス成功ノ期限ニ至テ成功セス其他命令ノ條項ニ從ハサルモノハ免許ノ効ヲ失ヒ且障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトアラハ出願人ノ費用ヲ以テ之ヲ除カシメ又ハ豫防セシムルコト
- 一 免許權ハ官許ヲ受クルニ非サレハ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得サルコト
- 一 天災事變ノ爲メニ期限内ニ著手若クハ成功シ難キ事情アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルニ於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト

第三條 通船ノ便利用悪水ノ疏通ヲ保護スル等埋立ノ地位ト季節トニヨリテ公益上制限ヲ加フルノ必要アルモノハ精細ニ其仕様ヲ命令書中ニ記載ス可シ

第四條 埋立成功ノ後其地所ノ道路溝渠物揚場等公共ノ用ニ供ス可キ分ハ無償ニテ官有トナス可シ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得
前項官有ニ歸ス可キ地區ト出願人ノ所有トス可キ地區トハ豫メ命令書並ニ圖面ニ明記ス可シ

第五條 大土工ニハ埋立方法書ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ造ラシメ之ヲ命令書ニ附屬ス可シ本條ノ場合ニ於テハ埋立ノ區域ヲ數區ニ分チ著手及成功ノ期限ヲ異ニシ殘工事ノ成功ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ限リハ其成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第六條 公有水面ヲ變シテ出願人ノ所有トナシタル後公害アルコトヲ發見スルトキハ時價ヲ以テ買収スルカ又ハ収用スルニ非サレハ回復スルコトヲ得ス

第七條 舊價ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面ヲ其儘使用センコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ
第八條 官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官

有地賣貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シム可シ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ル可シ

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條 何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム可シ
第十一條 凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用センコトヲ出願スル者アルトキハ共ニ内務大臣ニ稟議シテ其指令ヲ乞フ可シ

第十二條 公有水面ノ埋立ハ公益上必要アルモノ並特別ノ理由アルモノハ外五箇年内ニ成功シ難キ廣キ場所ヲ一手ニ免許スルコトヲ得ス

第十三條 公有水面ノ埋立使用ハ從來特ニ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添へ本大臣ニ稟議シテ後處分スヘシ其本大臣ノ指令ヲ得テ下付シタル命令書、設計書、圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

○官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣貸渡方

明治二十三年十月
内務省訓令第三十七號

北海道廳 府縣

本年勅令第三百二十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其廳ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス
前項賣渡貸渡ニシテ從來經伺ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作り願人ノ申立金額アレハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添へ本大臣ニ具申ス可シ

○官有地取扱規則 明治二十三年十一月 勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
- 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及収納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
- 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ

内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣却讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

○北海道土地拂下規則第十二條廢止 明治二十三年十二月閣

令第八號

明治十九年六月閣令第十六號北海道土地拂下規則第十二條ヲ廢ス

○陸地測量標條例施行細則第九條改正 明治二十三年十二月

北海道土地拂下規則第八十八丁ニ關ス

月陸軍省令第三十一號

陸地測量標條例施行細則第九條左ノ通改正ス

第九條 本條例第三條ノ敷地買上代ハ其都度之ヲ支給シ同第四條ノ借地料ハ會計年度末ニ於テ之ヲ支給ス但借地ノ一箇年ニ滿タサルモノハ月割ヲ以テ其料ヲ給ス

敷地買上代及借地料ハ本人ヨリ其地所轄ノ道廳府縣廳ニ請求書ヲ差出該廳ハ管内ノ分ハ取纏メ其金額ヲ陸地測量部ニ請求シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ但借地料請求書ハ三月五日迄ニ該廳ヘ差出該廳ハ同月十日限り之ヲ發送スヘシ

○社寺ノ土地ニ係ル御料地委託出願方 明治二十四年五月

宮内省告示第九號

御料地ノ内社寺ノ土地ニ係ルモノハ該社寺ノ出願ニ依リ本年四月農商務省令第五號社寺土地官林委託規則ヲ適用シ之ヲ委託スルコトアルヘキニ付委託ヲ請ケントスル社寺ハ左ノ區別ニ從ヒ出願スヘシ

- 一 御料局支廳又ハ事務所ノ所管ニ屬スル御料地ニ對シテハ該支廳長又ハ事務所長

陸地測量標條例施行細則第八十八丁ニ關ス

- 一 地方廳ニ委託シタル御料地ニ對シテハ該地方長官
- 一 以上列記外ノ御料地ニ對シテハ總テ御料局長

○外國公使館敷地トシテ官有地貸渡ハ隨意ノ

約定ニ依ルヲ得 明治二十四年七月 勅令第七十五號

朕外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ競争ヲ要セサル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

○道路橋梁

○軌道條例 明治二十三年八月 法律第七十一號

朕軌道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軌道條例

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得
第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若ハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ

之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得

第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

○人民私費ニテ開設セル橋梁渡津及道路等ニ於テ印鑑携帯ノ電信取扱所配達人ニ賃錢請求スルヲ得ス 明治二十四年五月 內務省訓令第六號

北海道廳 府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十一年十二月第二七號ヲ以及訓令置候處左ノ離形ノ印鑑携帯ノ者モ同様賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ

印鑑離形

二寸五分

第號 何國 何地電信取扱所配達人 何ノ誰 曲尺二寸

○明治 年 月 日 何何地國 何何電信取扱所

第二十六類 國稅

○地租

○地租條例第十條變換地取扱方心得明治二十三年十一月大

藏省訓令第
百四十三號

府縣沖繩縣ヲ除ク

- 一 地目若クハ地類ヲ變換シタル旨届出ツルモノアル時ハ直チニ其變換セシ地目ヲ土地臺帳元地目ノ傍ニ朱字訂正シ元段別地價地租ヲ其變換セシ地目ニ組替フヘシ
- 一 前項ノ場合ニ於テハ其變換ヲ登記所ニ通知スヘシ
- 一 修正地租徵收ノ年度ニ於テ彙ニ訂正セシ地目及ヒ修正地價地租ヲ土地臺帳ニ記載式ニヨリテ訂正シ其修正段別地價地租ノ増減額ノミ二十三
年當省訓令第二十九號第一號様式ノ四表ニ編入スヘシ但地類變換モ本文ノ例ニ依ル
- 一 前項ノ場合ニ於テ元段別ニ對シ其段別ニ増減アル時ハ其旨登記所ニ通知スヘシ

○明治廿三年大藏省訓令第十號(地租ニ關スル諸帳簿様式)中改正追加
明治二十四年二月
大藏省訓令第八號
府縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十三年大藏省訓令第十號別冊中第十號第十一號變換地臺帳別紙ノ通更正第十二號歟下年期ヲ付與セサル開墾地臺帳様式へ別紙ノ如ク凡例ヲ追加ス
但別紙ハ主稅局ヨリ送付ス(別紙略之)

○地租徵收期限改正
明治二十四年三月
法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス
但市街宅地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ共五分宛ヲ徵收ス
一期 該年九月一日ヨリ
二期 該年九月三十日ヨリ
三期 該年十一月一日ヨリ
四期 該年十一月三十日ヨリ
同 細方及宅地山 五分
同 林原野牧場 五分

| | | | |
|----|------------|----|------|
| 三期 | 該年十二月十六日ヨリ | 田方 | 貳分五厘 |
| 四期 | 翌年一月十五日ヨリ | 同 | 貳分五厘 |
| 五期 | 同 二月二十八日ヨリ | 同 | 貳分五厘 |
| 六期 | 同 三月三十一日ヨリ | 同 | 貳分五厘 |
| | 同 五月三十一日ヨリ | 同 | 貳分五厘 |

○地租條例施行細則第九條更正
明治二十四年三月
大藏省令第六號

地租條例施行細則第九條左ノ通更正ス
第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了スヘシ

○地租條例及同條例施行細則取扱方訓令中删除
明治二十四年三月
大藏省訓令第二十九號
府縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十二年當省訓令第七十六號地租條例及同條例施行細則取扱方第三條但書第四條第五條及第六條中「第十六條第三項十五年以上ノ年期及第六項第十八條」ノ二十三字ヲ削除ス

○地租ニ關スル諸帳簿様式中廢止更正
明治二十四年四月

地租條例施行細則
第八法令類編第三卷
第廿六類七丁ニ載ス

大藏省訓令
第四十一號

府縣
沖繩縣
ヲ除ク

明治二十三年當省訓令第十號別冊中第二十七號乃至第二十九號ノ諸表ヲ廢止第一號第十四號地租臺帳樣式別紙ノ通更正ス
但樣式ハ主稅局ヨリ送付ス(樣式畧之)

○土地分合筆取扱手續第一條第二條中改正島
廳及收稅部出張所地租取扱手續第二條削除

明治二十四年七月
大藏省訓令第五十七號

府縣
沖繩縣
ヲ除ク

明治二十年^四當省訓令第二十五號土地分合筆取扱手續第一條出願セノ三字ヲ届出ノ二字ニ改メ同第二條願書トアルヲ届書ニ改メ明治二十二年^三當省訓令第十五號地租事務取扱手續第二條ヲ削除ス

○酒造稅

○酒造稅則施行細則 明治二十三年八月
大藏省令第二十號

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則施行細則左ノ通相定メ明治二十三年

十月一日ヨリ施行ス

但明治十七年八月第六十四號當省達及明治二十二年十月第十四號省令ハ同日ヨリ廢止ス

酒造稅則施行細則

第一條 稅則第一條一項ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其願書ニ造石見込高ヲ記シ其酒造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數トニ拘ハラズ總テ其區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ檢査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ酒造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

稅則第一條二項ニ依リ保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ願出ノ際保證物又ハ保證人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

免許ヲ受ケタル後造石見込高ヲ増加シ又ハ土地建物等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘシ

免許ヲ受ケタル者ニシテ翌期ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ其年十月一日迄ニ願書ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ差出シ免許ノ證印ヲ受クヘシ

稅則第一條二項一ニノ年數ハ處罰ハ宣告ノ日滯納處分ハ完結ノ日ヨリ免許願出ノ日迄滿三年トス

第二條 酒造ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

他ノ管轄地へ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第三條 免許鑑札ヲ賣買讓與セントスルトキハ雙方連署ノ書面ニ鑑札ヲ添へ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ若シ他管廳ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 稅則第一條二項ニ依リ徵スヘキ保證物ノ種類左ノ如シ

有利公債證書

大藏省證券

日本銀行株券

正金銀行株券

國立銀行株券

政府ノ保護ヲ受クル會社株券債券

府縣郡市町村ノ公債證券

土地建物

第五條 前條保證物ノ保證價格ハ左ノ割合ニ依テ定ム

一 公債證券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ依ル

二 大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

三 銀行會社株券債券府縣郡市町村ノ公債證券ハ價格十分ノ八

四 土地建物ハ價格十分ノ六

第六條 稅則第一條二項三ノ所有不動産ノ價格及ヒ保證物トシテ差出スヘキ株券債券公債證券不動産ノ價格ハ各地現賣買ノ價格ヲ標準トシテ地方

長官之ヲ定ム

前項ニ依リ定メタル價格ニ付異議アルトキハ地方廳及ヒ其所有者ヨリ各

二名ノ評價人ヲ撰ミ價格ヲ評定セシメ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム

第七條 稅則第一條二項ニ依リ立ル所ノ保證人ハ不動産ヲ有シ又ハ所得稅

ヲ納ムル丁年以上ノ男子ニシテ地方長官ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第八條 保證物ハ土地建物ヲ除クノ外管廳ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 當初ノ造石見込高ニ依リ其營業ヲ免許シタルノ後更ニ増石スルト

キハ之ニ相當スル保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十條 保證ヲ徵セスシテ營業ヲ許可シタルモノ其造石數ヲ増加シタルタ

メ其所有不動産價格造石稅四分ノ一ヲ下リタルトキハ保證物ヲ徵シ又ハ

保證人ヲ立テシムヘシ

第十一條 稅則第十一條營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當ト爲ス場合ニ

於テハ其不動産ノ位置番號名稱種類段別又ハ坪數及土地臺帳記入ノ地價

地租ヲ詳記シテ管廳ニ届出ツヘシ

第十二條 酒造用容器ハ左ニ掲クル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄租稅検査員派出所ニ申出検査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號烙印及石數ノ記載ヲ受クヘシ

酒造桶類丈量法

口徑口頭ヨリ一寸第一胴徑口徑ヨリ全深四分第二胴徑口底徑ノ中央第三胴徑第二胴徑ヨリ全深四分第一筒所下リタル筒所ハ何レモ内測リニテ縱横○圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ
算則

(一) 第二胴徑以上ノ分

口徑ト第一胴徑ノ和ヲ自乘ノ甲トス
第一胴徑ト第二胴徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
口徑ト第二胴徑ノ和ハ第一胴徑ヲ乘シ丙トス
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及○、○四○三八四四乘率ノ一位ヲ尺位チ一位トス
ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容積ヲ得ル
但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

(二) 第二胴徑以下ノ分

第二胴徑ト第三胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス
第三胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
第二胴徑ト底徑ノ和ハ第三胴徑ヲ乘シ丙トス
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及○、○四○三八四四ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容積ヲ得ル
右(一)(二)チ合算シ滿量桶ノ石數ヲ得ル

第十三條 酒造用容器ヲ修繕シタルトキハ使用以前管廳ノ検査ヲ受クルモノトス

第十四條 甕類及胴張桶其他第十一條ノ丈量法及算則ニ依リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ測定スヘシ

第十五條 稅則第十條ノ検査ヲ受クヘキ酒類ハ其容器ノ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容レ置クヘシ其入實容器測定ノ全數ニ充タサル端數ハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實第一胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ第一胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス
假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シテ甲トス
假定ノ底徑口徑トノ和ヲ自乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實第一胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑假定トス此口徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ第二胴徑ヲ減シ之ニ容積面ヨリ第二胴徑マテノ入實深ヲ乘シ四倍シ全深ニテ除シタルモノニ第二胴徑ヲ加ヘ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積面ヨリ第二胴徑マテノ入實深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シタルモノニ第二胴徑以下ノ石數ヲ加ヘ現在ノ石數ヲ得ル

入實第三胴徑以上若クハ以下ニアルトキハ前項ニ準據スヘシ

第十六條 稅則第十七條ニ依リ酒類ヲ變製セントスルトキハ更ニ其變製ス

ヘキ酒類ノ種目及石數ヲ届出テ製成ノ上尙檢査ヲ受クルモノトス

第十七條 檢査未済ノ酒類腐敗其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄租稅檢査員派出所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第十八條 稅則第十八條造石稅免除酒類ハ一期中製造石高ヲ翌期十月中ニ届出ツヘシ

第十九條 檢査濟酒類及古酒買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々届出檢査ヲ受ケ尙製成ノ上檢査ヲ受クルモノトス但此ノ場合ニ於テ増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第二十條 清酒ハ搾リ揚ケ滓引以前濁酒白酒ハ醪ノ儘其他酒類ハ製成ノ上造石數ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十一條 造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スルモノ、檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第二十二條 營業人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ
造酒原品受拂帳
仕込帳

酒粕目方帳

蒸溜帳

變製酒類原品受拂帳

酒類倉出帳

酒類賣上帳

酒類買入帳

第二十三條 此細則ニ關スル帳簿記入方其他書式等ノ手續ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第二十四條 第十二條ハ此細則實施以後新調修繕ニ係ル分ヨリ施行ス

第二十五條 第十五條ノ場合ニ於テ舊丈量ノ容器ニ係ルモノハ左ノ算則ニ

依ルヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス
假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ

尺位ヲ一位トヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル
入實胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ兩タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之レニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乗シ甲トス
假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

○煙草稅

○煙草稅則施行細則第十五條改正 明治十四年三月大藏省令第二號

明治二十一年四月當省令第三號煙草稅則施行細則第十五條左ノ通改正ス
第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉

葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルコトヲ得

○煙草稅則施行細則第二十八條及第二十九條

中刪除 明治二十四年四月大藏省令第七號

明治二十一年四月當省令第三號煙草稅則施行細則第二十八條及同第二十九條中第二十八條ノ五字ヲ刪除ス

○煙草稅則取扱方要領第二款中刪除 明治二十四年四月大藏省訓令第三十九號

省訓令第三十九號

北海道廳 府縣 沖繩縣ヲ除ク

明治廿一年四月當省訓令第廿二號煙草稅則取扱方要領第二款中収獲調査ノ項ヲ刪除ス

○印紙類賣下賣捌

○印紙類賣下賣捌規則 明治二十三年十一月勅令第二百七十一號

朕印紙類賣下賣捌規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

煙草稅則施行細則ハ法令類編第二卷九百七十二丁ニ載ス

煙草稅則取扱方要領ハ法令類編第二卷九百八十一丁ニ載ス

證券印紙手形用紙共

烟草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

第二條 各府縣ニ左ノ印紙類賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

府縣廳ヨリ印紙類ヲ拂受ケ之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス

賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者

ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ

恩給ヲ受クル者

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 烟草營業人若ハ其家族又ハ同居ノ者ニハ烟草印紙賣藥營業者請賣

者行商者若ハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙ノ元賣捌及ヒ賣捌ヲ許可セス

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回二千圓以上ハ證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙額面ニ對シ百分ノ十以内

ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得但交換印紙ハ拾錢以上取

纏メタルモノニ限ル

一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ

一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其効ヲ失フモノトス

一 恩給若ハ扶助料ヲ受クル者其權利消滅若ハ停止セラレタルトキ

一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ラス來ル明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ施行セス

○印紙類賣下賣捌規則施行細則

明治廿三年十一月大藏省令第卅四號

明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則施行細則左ノ通り相定ム

印紙類賣下賣捌規則施行細則

第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各間稅分署所轄内ニ支店又ハ代理店ヲ設クヘシ

賣捌人ハ各間稅分署所轄内ヲ一區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ府縣知事適宜其人員ヲ定ムヘシ

第二條 印紙類ハ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモノトス

一間稅署ヨリ元賣捌人 登記印紙 百分ノ六

ニ賣下クルトキ 其他ノ印紙 百分ノ七

一元賣捌人ヨリ賣捌人 登記印紙 百分ノ四

ニ賣渡ストキ 其他ノ印紙 百分ノ五

第三條 規則第八條ノ割引歩合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ

一賣捌人ヨリ元賣捌人 登記印紙 百分ノ九

ニ請求スルトキ 其他ノ印紙 百分ノ十

一元賣捌人ヨリ間稅署 登記印紙 百分ノ八

ニ請求スルトキ 其他ノ印紙 百分ノ九

印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人ハ元賣捌人ニ元賣捌人ハ間稅署ニ申出ヘシ

第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限り其抵當價格ハ明治二十三年勅令第四號第三條ニ依ル

第五條 免許ヲ得タル元賣捌人ハ間稅署ヨリ賣捌人ハ間稅分署ヨリ各免許賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

各賣捌人ノ改名轉居等ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ其訂正ヲ請フヘシ
廢業シタルトキハ標札ヲ返納スヘシ

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テハ總テ廢業ノ取扱ニ依ルヘシ

第七條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ
都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣藥印
紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

附 則

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行ノ前日ニ現在スル印紙賣捌人ハ更ニ願出
ツルヲ要セス將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

○印紙類賣捌人印紙類買入帳調製及記入方明治

三年十二月大藏省
訓令第百四十九號

府縣 沖繩縣
ヲ除ク

本年十一月勅令第百七十一號同年同月本省第三十四號中印紙類賣捌人ハ
ハ印紙類買入帳ヲ製セシメ印紙類買入ヲ爲ス毎ニ買入ノ年月日印紙ノ種類
枚數ヲ記入シテ之ヲ携帶セシメ元賣捌人ヲシテ之ニ賣渡ノ認印ヲ押捺セシ
ムヘシ

○明治十九年六月大藏省訓令第二十二號(印紙

類賣下賣捌規則取扱手續中削除明治二十四年一
月大藏省訓令第一
三號

北海道廳 府縣

印紙類賣下賣捌規
則取扱手續ハ法令
ニ類編第二卷千七百
七丁

○同上第七項刪除明治二十四年三月
大藏省訓令第二十六號

北海道廳 府縣

明治十九年六月當省訓令第二十二號印紙類賣下賣捌規則取扱手續第七項ヲ
刪除ス

○船稅

○船稅徵收手續施行延期明治二十四年一月
大藏省令第一號

明治二十三年十二月勅令第百九十六號ヲ以テ同年十月勅令第二百十九號
船籍規則施行期限發布相成候ニ付二十三年十一月當省令第三十五號船稅徵
收手續ハ二十六年一月一日ヨリ施行ス

○船稅徵收手續明治二十三年十一月
大藏省令第三十五號

船稅徵收手續左ノ通相定メ二十四年一月一日ヨリ施行ス
但明治十七年^{六月}當省第三十八號達ハ同日ヨリ廢止ス

- 一 船籍證書ヲ受有スル船舶ハ其證書記載ノ登簿噸數又ハ積石數ヲ鑑札ニ記載シ其噸石數ニ據リ徵稅スヘシ其船籍證書ヲ受有セサルモノハ測度證書ニ據ルヘシ
- 一 測度ニ據リ在來徵稅ノ噸石數ニ増減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル稅金ヲ徵收スヘシ

○海關稅

○稅關法 明治二十三年九月 法律第八十號

朕稅關法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

稅關法

- 第一條 各開港ニ於テ西洋形船舶外國通航ノ日本形船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ニ關スル事項ハ總テ稅關ノ所管トス
- 第二條 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項ハ其所管ノ稅關ニ於テ之ヲ處理ス
- 第三條 船舶ハ法律命令ニ特例ヲ掲ケタル場合ヲ除ク外不開港ヨリ外國ニ

向テ出港シ若ハ外國ヨリ不開港ニ入港スルコトヲ得ス犯ス者ハ船長ヲ千圓ノ罰金ニ處ス

外國通航船ハ法律命令ニ特例ヲ掲ケタル場合ノ外開港ヲ經テ不開港ニ入港スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第四條 外國ニ通航セントスル船舶ハ豫メ稅關長ノ認許ヲ受クヘシ其認許ヲ受ケスシテ外國ニ向テ出港シタル者ハ船主ヲ千圓ノ罰金ニ處ス其積載シタル貨物ハ之ヲ沒收ス

第五條 納稅ヲ違脫若ハ減少センカ爲メ詐僞ノ文書ヲ稅關ニ差出シタル者ハ百二十五圓ノ罰金ニ處ス

第六條 輸入手數未済ノ貨物ヲ積載シタル沿海通航船ヨリ稅關規則ニ依リ仕向港稅關ニ差出シタル積荷目錄仕出港稅關ニ差出シタル積荷目錄ニ對シ貨物不足アリテ其所爲不正ニ出タルトキハ船長ヲ千圓ノ罰金ニ處ス

第七條 稅關規則ニ依リ輸出禁制品ヲ開港間ニ回漕スル者ハ同規則ニ定ムル期限内ニ仕向港稅關ノ陸揚證書ヲ仕出港稅關ニ差出スヘシ違フ者ハ原價同額ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條 稅關規則ニ依リ貨物ヲ開港間ニ回漕シ共回漕免狀ヲ紛失若ハ遺忘シタル者同規則ニ定ムル期限内ニ其手續ヲ爲サハルトキハ其回漕シタル貨物原價百分ノ五ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

第九條 積荷目録ニ記載セサル輸入貨物ヲ陸揚シタル者ハ其貨物輸入税ノ外同額ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 輸出禁制品ヲ輸出シタル者又ハ法律命令ニ背キ不開港ニ於テ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲シタル者ハ其貨物ヲ沒收ス

稅關規則ニ依リ陸揚免狀ヲ受ケスシテ貨物ヲ船卸シ船積免狀若ハ回漕免狀ヲ受ケスシテ船積シ又ハ輸入免狀ヲ受ケスシテ輸入シタル者ハ其貨物ヲ沒收ス

第十一條 輸出入包貨内ニ禁制品ヲ藏匿シ又ハ輸出入申告書若ハ仕入書ニ記載セサル有稅品ヲ藏匿シタルトキハ其包貨ヲ併セテ之ヲ沒收ス
旅具中ニ有稅品ヲ藏匿シタルトキハ其物品ヲ沒收ス
本條ヲ以テ刑法ノ適用ヲ妨クルコトナシ

第十二條 沒收スヘキ貨物ニシテ既ニ之ヲ賣却シ又ハ消費シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第十三條 稅關長ハ本法及稅關規則執行上必要ト認ムルトキハ船舶ノ出港ヲ止メ又ハ稅關監吏ニ令狀ヲ發シ輸出入貨物及運送ノ用ニ供スル物件ヲ差押ヘシムルコトヲ得

第十四條 稅關監吏ハ入港ノ船舶ニ乘込ミ要件ヲ尋問シ船内ヲ検査シ又ハ其船舶ニ臨監スルコトヲ得

船長ハ臨監ノ監吏ニ船室ヲ與ヘ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十五條 稅關監吏ハ密輸入品アルヲ知り若ハ密輸入品アリト思料スルトキハ家屋及其他ノ場所ニ立入り犯則ノ證據搜查ノ處分ヲ爲スコトヲ得
前條及本條ノ場合ニ於テ稅關監吏ハ主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第十六條 稅關長ハ本法及稅關規則ヲ犯シタル者ニ對シ其罰金若ハ科料ニ相當スル金額又ハ沒收スヘキ貨物及犯則取調ニ要シタル費用ヲ稅關ニ納ムヘキ旨ヲ申渡スコトヲ得

第十七條 前條ノ申渡ヲ受ケタル者ハ稅關休日ヲ除キ二日內ニ其申渡ニ服從スルヤ否ノ届書ヲ差出スヘシ

申渡ニ服從スル旨ヲ届出タルトキハ貨物ハ即日金額八十日內ニ納ムヘシ
申渡ニ服從セサル旨ヲ届出若ハ第一項ノ期限內ニ届出ヲ爲サス又ハ金額貨物ヲ納メサルトキハ稅關長ハ其犯則事件ヲ告發スヘシ

第十八條 稅關長犯則事件ノ取調ヲ爲ストキハ犯則人及證人關係人ヲ召喚スルコトヲ得

關稅長ハ犯則人及證人關係人召喚ニ應セス又ハ證人タルコトヲ拒ミ又ハ事實ノ申告ヲ爲サ、ルニ因リ第十六條ノ申渡ヲ爲シ難キトキハ其犯則事件ヲ告發スヘシ

第十九條 稅關長ノ處分スル犯則事件取調ノ費用ハ刑事裁判ノ例ニ依テ之

ヲ算定ス

第二十條 本法及稅關規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 本法ニ規定スル所ノ外外國通航船沿海通航船及輸出入貨物並ニ減稅免稅假納稅ニ關ル事項ハ稅關規則ヲ以テ之ヲ規定ス

稅關規則ニハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 稅關規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

明治三年正月二十七日布告商船規則中免許ナク外國へ通船ノ儀不相成云々ノ一項及同七年第百二十三號同八年第二十號同年第百六十三號同九年第百四十九號布告ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

○稅關規則 明治二十三年九月 勅令第百二十三號

朕稅關規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

稅關規則

第一章 外國通航船及輸出入貨物

第一條 外國通航船入港シタルトキハ其船長ハ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ

入港届書及積荷目録ヲ稅關ニ差出ト同時ニ船籍證書船舶登記證書船鑑札及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ證憑書類ヲ稅關ニ預ケ入港手續料十五圓ヲ納ムヘシ但貨物ヲ積卸セスシテ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ出港スル者ハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第二條 積荷目録ニ遺漏若ハ相違ノ事項アルトキハ入港手續ヲ了リタル時ヨリ二十四時内ハ稅關ノ認許ヲ得之ヲ訂正スルコトヲ得

前項ノ時限ヲ經過シタル後積荷目録ヲ訂正セントスルトキハ手續料十五圓ヲ納ムヘシ

第三條 外國通航船出港セントスルトキハ其船長ハ出港ノ時ヨリ二十四時前ニ出港届書ヲ稅關ニ差出シ出港手續料七圓ヲ納メ第一條ニ依リ稅關ニ預ケタル船籍證書船舶登記證書船鑑札及證憑書類ヲ受戻シ出港免狀ヲ受クヘシ

第四條 外國通航船出港手續ヲ了リタル後尙ホ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚セントスルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲シ其手續料ヲ納メ其出港ノ時モ亦第三條ノ手續ヲ爲シ其手續料ヲ納ムヘシ但稅關手續既済ノ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚スル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 郵船ハ同時ニ入港及出港ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第六條 郵船ハ其港ニ陸揚スル貨物ノ外ハ積荷目録ニ記載スルコトヲ要セ

第七條 郵船ハ出港手數ヲ了リタル後ト雖第四條ノ手數ヲ爲サスシテ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚スルコトヲ得

第八條 外國通航船航海中避難ノ爲メ已ムヲ得スシテ入港シタルトキハ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ其事由ヲ税關ニ申出認許ヲ受クヘシ

前項ノ船舶修繕其他已ムヲ得サル事故ニ由リ假ニ其積荷ヲ陸揚シ又ハ損傷ノ貨物ヲ賣拂ヒ若ハ船中必需ノ物品ヲ積入ル場合ニ於テハ入出港手數ヲ爲スヲ要セス其他ノ貨物ヲ陸揚シ船積シ船移シ若ハ假ニ陸揚シタル貨物ヲ賣拂ハントスルトキハ第一條ノ手數ヲ爲シ其手數料ヲ納メ其出港ノ時モ亦第三條ノ手數ヲ爲シ其手數料ヲ納ムヘシ

第九條 外國通航船ハ日没ヨリ日出マテノ間及税關ノ休日ニハ税關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ陸揚シ船積シ若ハ船移スルコトヲ得ス

第十條 外國通航船避難ノ爲メ已ムヲ得スシテ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ其事由ヲ記シタル書面ヲ其地ノ町村役場若ハ浦役場ニ差出スヘシ若シ船中需用品ヲ積入ル、トキハ別ニ其目錄ヲ差出シ各其證明ヲ受ケ他日開港ニ入港シタルトキ之ヲ税關ニ差出スヘシ

第十一條 船舶ヲ外國通航船ト爲シ及外國通航船ノ沿海通航船ト爲サントスルトキハ船主ヨリ税關ニ申出船中ノ検査ヲ經免狀ヲ受クヘシ

第十二條 輸出貨物ヲ船積セントスル者ハ其申告書ヲ税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ經輸出税目ニ從ヒ納税シ船積免狀ヲ受クヘシ

第十三條 輸入手數既濟ノ外國產貨物ヲ外國ニ積戻サントスル者ハ輸出税ヲ納ムルニ及ハス但書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出検査ヲ經船積免狀ヲ受クヘシ

第十四條 船中ノ需用品ニ付キテハ輸出税ヲ納ムルニ及ハス但船長ハ前條ノ手數ヲ爲スヘシ

第十五條 輸入貨物ヲ陸揚セントスル者ハ其申告書ニ仕入書ヲ添ヘ之ヲ税關ニ差出シ陸揚免狀ヲ受ケ其貨物ヲ陸揚シ現品ノ検査ヲ經輸入税目ニ從ヒ納税シ輸入免狀ヲ受ケテ之ヲ引取ヘシ

第十六條 內國產ノ貨物ヲ外國ヨリ積戻リ左ノ事項ヲ具備スルトキハ輸入税ヲ納ムルニ及ハス但前條ノ手數ヲ爲スヘシ

一 輸出ノ時ノ性質若ハ形狀ヲ變セサルコト

二 輸出ノ日ヨリ滿五箇年ヲ經過セサルコト

三 輸出免狀ヲ付スルコト

第十七條 無税品ヲ除クノ外仕入書ヲ付セサル貨物ハ輸入ヲ許サス但税關

長其仕入書ヲ差出シ能ハサル理由アリト認メ該貨主税關官吏ノ査定セル數量、尺度若ハ價額ニ從ヒ納税スルモノハ此ノ限ニアラス

第十八條 價ニ從ヒ徵税スヘキ貨物ニシテ其原價ヲ税關ニ於テ不相當ト認ムルトキハ税關鑑定官吏ヲシテ其價ヲ査定セシメ其査定額ニ從ヒ納税セシムヘシ

若シ貨主前項ノ査定額ニ從ヒ納税スルヲ欲セサルトキハ該査定額ヲ以テ税關ニ其貨物ノ買上ヲ請フコトヲ得但第十七條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第十九條 外國通航船貨物ヲ他ノ船舶ニ若ハ他ノ船舶ヨリ積移サントスルトキハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出船移免狀ヲ受クヘシ但郵船ニ積載シタル貨物ヲ其會社所屬ノ庫船若ハ解舟ニ積移スニハ免狀ヲ受クルニ及ハス

第二十條 有税ノ貨物損傷シタルカ爲メニ減税ヲ請ハントスル者ハ現品ノ検査ヲ受クル前其旨ヲ税關長ニ申出ヘシ税關長ハ税關鑑定官吏ヲシテ現品損傷ノ程度ヲ査定セシメ相當ノ減税ヲ爲スヘシ

第二十一條 外國軍艦ノ備用品ヲ買受クルトキハ賣主ノ證明書ヲ受ケ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出相當ノ輸入税ヲ納ムヘシ

第二十二條 內國産金銀地金ハ政府ニ於テ公賣シタルモノヲ除クノ外ハ輸出スルコトヲ得ス

第二十三條 船客ノ旅具ハ陸揚船積共書面ヲ以テ其旨ヲ申出ルニ及ハス但通關前ニ税關官吏ノ検査ヲ受クヘシ

税關ニ於テ旅具ト認メサルモノハ相當ノ税金ヲ納メシムヘシ

第二十四條 第八條ノ船舶修繕其他已ムヲ得サル事故ニ由リ一時貨物ヲ陸揚スルトキハ之ヲ税關ニ預クヘシ

前項ノ貨物ヲ陸揚シ及之ヲ本船ニ積戻スニハ輸入出ノ手數ヲ爲スニ及ハス但其貨物ノ保管ニ要スル諸費ハ船長ヨリ之ヲ税關ニ納ムヘシ

第一項ノ貨物ヲ賣拂ハントスルトキハ第十五條ノ手數ヲ爲シ其税金ヲ納ムヘシ

第二十五條 外國通航船若ハ外國船ヲ以テ貨物ヲ開港間ニ回漕セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出現品ノ検査ヲ經回漕免狀ヲ受ケテ之ヲ船積スヘシ

第二十六條 前條ノ貨物若シ有税內國産ナルトキハ相當ノ税金ヲ假納スルカ若ハ税關長ノ満足スヘキ證書ヲ差入レ置キ回漕免狀付與ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出シ其假納税金若ハ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スヘシ

前項ノ期限内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出サ、ルニ於テハ輸出シタル

モノト看做シ其税金ヲ納メシムヘシ

第二十七條 第二十五條ノ貨物若シ輸出禁制品ナルトキハ回漕免狀付與ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出スヘシ

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ貨物ヲ積載シタル船舶航海中破船其他ノ事故ニ由リ貨物ヲ仕向港ニ回漕シ能ハサルトキハ其事由ヲ仕出港税關ニ届出該船出港ノ日ヨリ滿一箇年以内ニ其證據ヲ舉示シ假納稅若ハ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スコトヲ得

第二十九條 第二十五條ノ回漕貨物ヲ仕向港ニ於テ陸揚セントスル者ハ書面ヲ以テ其仕向港ノ税關ニ申出仕出港税關ヨリ受ケタル回漕免狀ニ陸揚ノ證明ヲ受ケ現品ノ検査ヲ經テ之ヲ引取ヘシ

前項回漕免狀ノ紛失若ハ遺忘ニ因リ之ヲ仕向港税關ニ差出シ難キトキハ税關長ノ満足スヘキ證書ヲ差入レ置キ其證書ノ日附ヨリ滿四箇月以内ニ回漕免狀若ハ之ニ代ルヘキ仕出港税關ノ證明書ヲ差出シ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スヘシ

第三十條 外國通航船修繕ノ爲メ開港ヨリ不開港ニ回船セントスルトキ又ハ重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸ヲ爲シ難ク不開港ニ回船セントスルトキハ書面ヲ以テ其旨ヲ申出税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第二章 沿海通及航船輸入手數未濟貨物回漕

第三十一條 沿海通航船入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時内ニ入港届書ヲ税關ニ差出シ同時ニ船籍證書、船舶登記證書及船鑑札ヲ預クヘシ

第三十二條 沿海通航船出港セントスルトキハ其船長ハ出港ノ時ヨリ四時前ニ出港届書ヲ税關ニ差出シ船籍證書、船舶登記證書及船鑑札ヲ受戻スヘシ

第三十三條 船籍證書、船舶登記證書ノ受有ヲ要セサル諸船及一定ノ港津間ニ往復スル積量百噸以下ノ西洋形船舶ハ船主ヨリ豫テ税關ニ届出テ認許ヲ受クルニ於テハ第三十一條及第三十二條ノ手數ヲ爲スニ及ハス

第三十四條 沿海通航船輸入手數未濟ノ貨物ヲ積載シテ出港セントスルトキハ其船長ハ第三十二條ノ手數ヲ爲スト同時ニ出港積荷目錄ニ通テ税關ニ差出スヘシ

第三十五條 前條ノ船舶仕向港ニ入港シタルトキハ其船長ハ第三十一條ノ手數ヲ爲スト同時ニ入港積荷目錄ヲ税關ニ差出スヘシ

第三十六條 沿海通航船ヲ以テ輸入手數未濟ノ貨物ヲ開港間ニ回漕セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出船籍免狀ヲ受クヘシ
前項ノ貨物ヲ陸揚セントスル者ハ第十五條ニ又船移セントスル者ハ第九條ニ據ルヘシ

第三章 罰則

第三十七條 外國通航船第一條ノ時限内ニ入港手數ヲ爲サ、ルトキハ船長ヲ六十圓ノ罰金ニ處シ尙ホ其手數ヲ爲サ、ルニ於テハ初犯ノ時ヨリ二十四時ヲ過ルル毎ニ更ニ同額ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第九條第二項ニ掲クル税關監吏ノ爲シタル封鎖ヲ破却シ若ハ之ヲ取除キタルトキハ船長ヲ六十圓ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第十九條及第三十六條第二項ノ船移免狀ヲ受ケスシテ船移シタル者ハ前條同額ノ罰金ニ處ス

第四十條 外國通航船第八條第一項ノ場合ニ於テ規定ノ時限内ニ入港ノ事由ヲ申出サルトキハ船長ヲ十五圓ノ罰金ニ處ス

第四十一條 外國通航船第十條ノ場合ニ於テ町村役場若ハ浦役場ノ證明ヲ受クルト雖之ヲ税關ニ差出サ、サルトキハ船長ヲ十五圓ノ罰金ニ處ス

第四十二條 沿海通航船第三十一條ノ時限内ニ入港ノ手數ヲ爲サス又ハ第三十二條ノ時限前ニ出港ノ手數ヲ爲サ、ルトキハ船長ヲ五圓ノ罰金ニ處ス

第四章 雜則

第四十三條 輸出入貨物ノ類別ニ就キ税關鑑定官吏ノ査定ニ不服アル者ハ其査定ノ日ヨリ十日以内ニ税關長ニ申告シ判定ヲ請フコトヲ得

税關長ノ判定ニ不服アル者ハ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ判定書ヲ添ヘ大藏大臣ニ裁定ヲ請フコトヲ得

第四十四條 税關官吏ハ必要ノ場合ニハ輸出入貨物ノ小部分ヲ見本トシテ税關ニ留置クコトヲ得

第四十五條 此ノ規則ニ依リ税關ニ差出スヘキ書面ハ總テ税關一定ノ書式ヲ用ヒ船主、船長若ハ貨主之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 税關ヨリ交付スル諸免狀ノ謄本其他別段ノ證書ヲ請フ者ハ一通毎ニ一圓五十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

第四十七條 此ノ規則ニ於テ日時ヲ以テ期限ヲ設ケタルモノハ其期限内ニ税關ノ休日ヲ算入セス又年月ヲ以テ期限ヲ設ケタルモノハ休日ニ算入ス

第四十八條 税關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時マテトス但臨時開廳ヲ請フ者ハ税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第四十九條 第九條第一項及第四十八條但書ノ場合ニ於テ特許ヲ請フ者ハ定規ノ手數料ヲ納ムヘシ但其手數料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五十條 此ノ規則ニ於テ船主ト稱スルハ其船ハ所有主若ハ現ニ其船ノ使用權ヲ有スル者ヲ云ヒ船長ト稱スルハ現ニ其船ヲ管理シ若ハ指揮スル者ヲ云ヒ貨主ト稱スルハ貨物ノ所有主若ハ其受託人ヲ云フ

第五十一條 此ノ規則ニ於テ輸出ト稱スルハ貨物ヲ外國ニ輸出スルヲ云ヒ

輸入ト稱スルハ貨物ヲ外國ヨリ輸入スルヲ云ヒ貨物ト稱スルハ旅具及船用品ヲ除クノ外一切ノ物件ヲ云フ

第五十二條 此ノ規則ニ於テ入港ノ時ト稱スルハ船舶ノ投錨若ハ繫留セシトキヲ云ヒ出港ノ時ト稱スルハ拔錨若ハ解纜ノトキヲ云フ

第五十三條 密輸出入ヲ稅關ニ申告スル者ニハ其沒収セシ貨物代價ノ半額ヲ給ス

附則

第五十四條 露西亞國樺太島貿易ニ從事スル船舶ニ限リ當分ノ内出入港手續料及該船ニ搭載スル貨物ノ輸出入稅ヲ免除ス但船舶ノ出入港手續ニ限リ第三十一條第三十二條ヲ適用ス

○稅關規則第九條及第四十八條ノ特許手續料

明治二十三年九月
大藏省令第二十二號

本年九勅令第二百三號稅關規則第九條及第四十八條ノ特許手續料左ノ通之ヲ定ム

稅關平日貨物積卸特許手續料
一日沒ヨリ日出マテ 每一時間 壹圓五十錢

稅關休日貨物積卸特許手續料

一日出ヨリ日沒マテ 每一時間 壹圓
一日沒ヨリ日出マテ 同 壹圓五十錢

稅關平日臨時開廳特許手續料

一午後四時ヨリ同六時マテ 拾五圓
一午後四時ヨリ同十二時マテ 四十五圓
一午後四時ヨリ同十二時ヲ過ルトキ 九拾五圓
一午前六時ヨリ同十時マテ 貳拾圓
但前日ヨリ引續キ開廳ノ場合ハ此限ニアラス

稅關休日臨時開廳特許手續料

一午前十時ヨリ午後四時マテ 貳拾五圓
一午前十時ヨリ午後六時マテ 四拾圓
一午前十時ヨリ午後十二時マテ 七拾圓
一午前十時ヨリ午後十二時ヲ過ルトキ 百貳拾圓

稅關出張所平日貨物積卸特許手續料

一日沒ヨリ日出マテ 每一時間 七拾五錢

稅關出張所休日貨物積卸特許手續料

一日出ヨリ日沒マテ 每一時間 五拾錢
一日沒ヨリ日出マテ 同 七拾五錢

税關出張所平日及休日臨時開廳特許手数料
 一日出ヨリ日没マテ 每一時間 壹圓
 一日没ヨリ日出マテ 同 壹圓五拾錢

○税關管轄區域 明治二十三年九月
大藏省令第二十二號

朕税關管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
 税關管轄區域左ノ通之ヲ定ム

横濱税關管轄區域

陸前 磐城 常陸 下總 上總 安房 武藏 相模 伊豆 駿河 遠江
 十一箇國及小笠原島ノ沿岸

大阪税關管轄區域

參河 尾張 伊勢 志摩 紀伊 和泉 攝津 西成郡
以東

七箇國ノ沿岸

神戸税關管轄區域

攝津 川邊郡
以西 播磨 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 石見 出雲
 伯耆 因幡 但馬 丹後 隱岐 伊豫 土佐 阿波 讚岐 淡路
 二十箇國ノ沿岸

長崎税關管轄區域

肥前 肥後 筑前 筑後 豊前 豊後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對島
 琉球

十二箇國ノ沿岸

新潟税關管轄區域

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 羽前 羽後 佐渡
 九箇國ノ沿岸

函館税關管轄區域

陸奥 陸中 渡島 後志 石狩 天鹽 北見 根室 千島 釧路 十勝
 日高 膽振
 十三箇國ノ沿岸

○税關管轄區域制定ニ附キ沿海開港外役場ヨ
 リ所管税關ニ通報スヘキ場合 明治二十三年九月
大藏省訓令第二百二
十八號

北海道廳 沿海府縣

今般勅令第二百四號ヲ以テ税關管轄區域制定相成候ニ付テハ右勅令施行ノ
 日ヨリ沿海開港外ニ於テ左ノ場合アルトキハ速カニ其地ノ町村役場若クハ

浦役場ヨリ所管税關ニ通報セシムヘシ

一 税關法第三條ノ違犯者アリタルトキ

一 法律命令ニ背キ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲ス者アリタルトキ

一 外國通航船避難ノ爲メ入港シタルトキ

一 外國船入港シタルトキ但特ニ免許ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

一 外國通航船又ハ外國船難破シタルトキ

○北海道水産税

○北海道水産營業者納稅方 明治二十三年十月
大藏省令第二十五號

明治二十年三月勅令第六號北海道水産税則附則第十六條ニ依リ納稅シ來ル水産營業者ハ二十年四月以後三箇年間ノ平均產出額ニ就キ本税則ニ據リ納稅スヘシ

○北海道水産税算出價格改正 明治二十四年三月
大藏省令第四號

北海道水産税ノ算出價額ハ明治二十一年一月ヨリ同二十三年十二月マテ三箇年間水産物ノ平均產出高並ニ賣買相場ニ依リ之ヲ改正シ二十五年年度ヨリ施行ス

○总納處分

○明治廿三年訓令第八號(國稅滯納處分施行實況報告表處分費報告表)廢止及滯納處分報告

方 明治二十四年四月
大藏省訓令第三十號

府縣 沖繩縣
ヲ除ク

明治二十三年二月訓令第八號國稅滯納處分施行實況報告表及處分費報告表來ル二十四年度以降相廢候條爾後滯納處分ヲ爲シタルモノハ同年大藏省令第三號國稅徵收法施行細則第二十條ノ報告書ヘ左ノ書式ノ如ク備考ノ一欄ヲ設ケ共事由ヲ掲ケ其缺損ニ屬セシモノハ金員ノ次ヘ一區ヲ畫シテ人員ヲ記入スヘシ

但隨時納期ヲ定ムル國稅ニシテ滯納處分ヲ施行セシモノアルトキハ每半年度分取纏メ本表ニ倣ヒ報告書ヲ調製シ十一月ノ兩度ニ送付スヘシ

○犯則處分

○間接國稅犯則者處分法 明治二十三年九月
法律第八十六號

朕間接國稅犯則者處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得
犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲スコトキハ間稅官吏タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲スコトキハ本人若ハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條 間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキ

ハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若ハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徴スヘシ若シ差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 本人ノ氏名年齢身分職業住所
- 二 犯則事件發見ノ手續及日時場所
- 三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述
- 四 差押ヘタル證據物件及種類數量並ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯

則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒収ニ該ル者ハ沒収スヘキ物品並ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ
前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ拘留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ
犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ
一 犯則者逃走ノ恐アルトキ

二 證據湮滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

第十八條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間接國稅ノ検査若ハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ

第十九條 間稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス

○間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達

明治二十三年十月勅令第二百三十二號

朕間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 間接國稅犯則者處分ニ關シ犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第二條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取りタル者ヨリ領收書ヲ取リテ間稅署若ハ間稅分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間稅署長若ハ間稅分署長ニ差出スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

○間接國稅犯則者處分法施行細則 明治二十三年十一月大藏省令第一號

三十一號

間接國稅犯則者處分法施行細則左ノ通相定ム
間接國稅犯則者處分法施行細則

第一條 間接國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條 數箇ノ間稅官署ノ管轄區域内ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條 一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若シ間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條 間稅官吏犯則事件ノ證據集取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條 間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナル

シ
ヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ問稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條 問稅官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條 問稅官吏犯則事件ノ搜查ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證據不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サ、ル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ問稅分署長ニ差出スヘシ

第九條 犯則處分ニ關シ問稅官吏ヨリ問稅署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條 問稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ問稅官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條 問稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條 第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條

ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第十三條 問稅署長又ハ分署長ハ犯則者ニ於テ處分通告ノ旨ヲ履行セサルニ依リ管轄裁判所ニ該事件ヲ告發スルトキハ同時ニ處分法第十六條ノ費用ヲ該裁判所ニ訴求スヘシ

第十四條 處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ隣佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五條 問稅署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十六條 處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條 處分法第十二條ニ掲ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條 問稅署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ之ヲ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收證ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル問稅官署ニ發送スヘシ

第十九條 問稅署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄問稅分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間稅署長ニ於テ各分署管轄内ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ
 第二十條 間稅署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ
 謄本ヲ犯則者所在地ノ間稅分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ
 移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯則者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告
 書ヲ發シタル間稅官署ニ報告スヘシ

第二十一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ
 例ニ依ルヘシ

第二十二條 凡ツ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ
 挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シ
 タルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條 間稅分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ
 調製シ毎月五日限管轄間稅署長ニ報告スヘシ

第二十四條 處分法第一條第三項ノ間稅官吏タルノ證票同第十一條ノ送達
 書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ
 第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第一號様式

用紙厚紙縱二寸横一寸五分

第何號
 表 證 票
 間稅署
 之 印

裏 間稅官吏
 何縣收稅屬何某
 印 劃

第二號様式

送 達 書

| | | | | | | | |
|----|----|----------------------|--------|--------|---------|--------------------------|--------|
| 一冊 | 一冊 | 受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其理由 | 送達シタル月 | 送達シタル日 | 送達シタル場所 | 同居人若クハ市町村長ハ書類ヲ渡シタルトキハ其事由 | 右致送達候也 |
| 一冊 | 一通 | | | | | | |

一(送達スヘキ書名)

一(同)

右使丁ヲ以テ(何縣)府下何郡何村何番地何某(送達セシムル者也

明治何年何月何日

何間稅(分)署之印

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|---------|---------|-----------------|------|---------|---------|---------|-------------|----------|-------------|---------|------|---------|----------|--------------|-------------------------|----------------------------|--------|-----------|---------|---------|---------|--|
| 庫 | | | | | | | | | | | | 神 | | | | | 阪 | | | | | | | | | |
| 市 | 洲 | 篠 | 柏 | 村 | 和 | 豐 | 山 | 赤 | 龍 | 田 | 姫 | 加 | 府 | 八 | 青 | 神 | 横 | 牧 | 八 | 富 | 岸 | 堺 | 茨 | 池 | 天 | |
| 村 | 本 | 山 | 原 | 岡 | 田 | 岡 | 崎 | 穂 | 野 | 原 | 路 | 古 | 中 | 王 | 梅 | 奈 | 濱 | 方 | 尾 | 田 | 和 | | 水 | 田 | 王 | |
| 三原郡 | 津名郡 | 多紀郡 | 氷上郡 | 七美郡、二方郡 | 養父郡、朝來郡 | 城崎郡、美含郡、石出郡、氣多郡 | 宍粟郡 | 赤穂郡、佐用郡 | 揖東郡、揖西郡 | 神東郡、神西郡 | 姫路市、飾東郡、飾西郡 | 加古郡、印南郡 | 北多摩郡 | 南多摩郡 | 西多摩郡 | 橘樹郡、都筑郡 | 横濱市、久良岐郡 | 茨田郡、交野郡、讚良郡、 | 丹北郡、大縣郡、高安郡、若江郡、河内郡、澁川郡 | 石川郡、安宿郡、錦郡、丹南郡、八上郡、志紀郡、古市郡 | 南郡、日根郡 | 堺市、大島郡、泉郡 | 島上郡、島下郡 | 豊島郡、能勢郡 | 東成郡、住吉郡 | |
| 新 | | | | | 崎 | | | | | | | 兵 | | | | | 川 | | | | | 奈 | | | | |
| 三 | 卷 | 新 | 新 | 新 | 對 | 武 | 福 | 平 | 島 | 諫 | 大 | 長 | 社 | 明 | 三 | 伊 | 西 | 神 | 中 | 厚 | 小 | 松 | 大 | 藤 | 横 | |
| 條 | | 津 | 發 | 潟 | 馬 | 生 | 江 | 戶 | 原 | 早 | 村 | 崎 | | 石 | 田 | 丹 | 宮 | 戶 | 野 | 木 | 田 | 磯 | 澤 | 須 | | |
| 南蒲原郡 | 西蒲原郡 | 中蒲原郡 | 北蒲原郡 | 新潟市 | 上縣郡、下縣郡 | 壹岐郡、石田郡 | 南松浦郡 | 北松浦郡 | 南高來郡 | 北高來郡 | 東彼杵郡 | 長崎市、西彼杵郡 | 加東郡、加西郡、多可郡 | 明石郡、美濃郡 | 有馬郡 | 川邊郡 | 菟原郡、武庫郡 | 神戸市、八部郡 | 津久井郡 | 愛甲郡 | 足柄下郡 | 足柄上郡 | 大住郡、淘綾郡 | 高座郡、鎌倉郡 | 三浦郡 | |

| 澗 | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------------|---------------|------|---------|-----------|------|------|-----------------|-------------|-----|---------|---------|
| 浦和 | 相川 | 村上 | 糸魚川 | 高田 | 安塚 | 柏崎 | 十日町 | 六日町 | 小千谷 | 長岡 | 與板 | 津川 |
| 北足立郡、新座郡 | 雜太郡、加茂郡、羽茂郡 | 岩船郡 | 西頸城郡 | 中頸城郡 | 東頸城郡 | 刈羽郡 | 中魚沼郡 | 南魚沼郡 | 北魚沼郡 | 古志郡 | 三島郡 | 東蒲原郡 |
| 千 | | | | | | 玉 | | | | | | |
| 銚子 | 佐原 | 佐倉 | 松戸 | 千葉 | 杉戸 | 岩槻 | 忍 | 熊谷 | 本庄 | 大宮 | 松山 | 川越 |
| 海上郡、匝返郡 | 香取郡 | 印旛郡、南相馬郡、下埴生郡 | 東葛飾郡 | 千葉郡、市原郡 | 北葛飾郡、中葛飾郡 | 南埼玉郡 | 北埼玉郡 | 大里郡、幡羅郡、榛澤郡、男衾郡 | 兒玉郡、賀美郡、那珂郡 | 秩父郡 | 比企郡、横見郡 | 入間郡、高麗郡 |

| 茨 | | | | | | | 葉 | | | | | |
|----------|-----|-----|------|--------------|----------|-----------|----------|-----------------|-------------|-----|----------|---------|
| 土浦 | 麻生 | 鉾田 | 松原 | 太田 | 菅谷 | 笠間 | 水戸 | 北條 | 木更津 | 大多喜 | 茂原 | 東金 |
| 新治郡 | 行方郡 | 鹿島郡 | 多賀郡 | 久慈郡 | 那珂郡 | 西茨城郡 | 水戸市、東茨城郡 | 安房郡、平郡、朝夷郡、長狹郡、 | 望陀郡、周准郡、天羽郡 | 夷隅郡 | 長柄郡、上埴生郡 | 山邊郡、武射郡 |
| 群 | | | | | | | 城 | | | | | |
| 沼田 | 中ノ條 | 安中 | 富岡 | 藤岡 | 高崎 | 前橋 | 取手 | 境 | 宗道 | 下館 | 江戸崎 | 谷田部 |
| 利根郡、北勢多郡 | 吾妻郡 | 碓氷郡 | 北甘樂郡 | 綠野郡、多胡郡、南甘樂郡 | 西群馬郡、片岡郡 | 東群馬郡、南勢多郡 | 北相馬郡 | 西葛飾郡、猿島郡 | 結城郡、岡田郡、豐田郡 | 眞壁郡 | 信太郡、河内郡 | 筑波郡 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----------------|----|-----------------|----|---------|-----|---------|-----|---------|-----|---------|----|------|----|---------|-----|--------|----|-----|----|---------|-----|-----|------|---------------------|
| 馬 | | | | | | | | | | | | 木 | | | | | | 奈 | | | | | | | |
| 太田 | 新田郡 | 桐生 | 山田郡 | 館林 | 邑樂郡 | 伊勢崎 | 佐位郡、那波郡 | 足利 | 足利郡、梁田郡 | 佐野 | 安蘇郡 | 栃木 | 下都賀郡 | 鹿沼 | 上都賀郡 | 宇都宮 | 河内郡 | 具岡 | 芳賀郡 | 矢板 | 鹽谷郡 | 大田原 | 那須郡 | 奈良 | 添上郡、添下郡、山邊郡、淺瀬郡、平群郡 |
| 奈 | | | | | | 三 | | | | | | 良 | | 奈 | | | | | | | | | | | |
| 三輪 | 式上郡、式下郡、宇陀郡、十市郡 | 御所 | 高市郡、葛上郡、葛下郡、忍海郡 | 五條 | 宇智郡、吉野郡 | 桑名 | 桑名郡 | 大泉原 | 員辨郡 | 四日市 | 三重郡、朝明郡 | 龜山 | 鈴鹿郡 | 白子 | 奄藝郡、河曲郡 | 津 | 津市、安濃郡 | 久居 | 一志郡 | 松阪 | 飯高郡、飯野郡 | 相可 | 多氣郡 | 宇治山田 | 度會郡 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---------|----|---------|----|---------|----|------|----|------|-----|------|----|------|----|-------|------|-------|----|---------|----|---------|----|---------|----|-----|
| 重 | | | | | | | | | | | | 愛 | | | | | | | | | | | | | |
| 上野 | 阿拜郡、山田郡 | 名張 | 名張郡、伊賀郡 | 鳥羽 | 答志郡、英虞郡 | 尾鷲 | 北牟婁郡 | 木本 | 南牟婁郡 | 名古屋 | 名古屋市 | 熱田 | 愛知郡 | 勝川 | 東春日井郡 | 西枇杷島 | 西春日井郡 | 小折 | 丹羽郡、葉栗郡 | 稻澤 | 中島郡 | 津島 | 海東郡、海西郡 | 半田 | 知多郡 |
| 知 | | | | | | | | | | | | 靜 | | | | | | | | | | | | | |
| 知立 | 碧海郡 | 西尾 | 幡豆郡 | 岡崎 | 額田郡 | 學母 | 西加茂郡 | 足助 | 東加茂郡 | 田口 | 北設樂郡 | 新城 | 南設樂郡 | 御油 | 寶飯郡 | 豐橋 | 渥美郡 | 富岡 | 八名郡 | 下田 | 加茂郡、那賀郡 | 三島 | 君澤郡、田方郡 | 沼津 | 駿東郡 |

| | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|---------|-------------|-------------|---------|---------|------|---------|-------------|------|-----------|
| 山 | | 岡 | | | | | | | | | | |
| 石和 | 日下部 | 甲府 | 氣賀 | 濱松 | 見付 | 森 | 掛川 | 靜波 | 藤枝 | 靜岡 | 江尻 | 吉原 |
| 東八代郡 | 東山梨郡 | 甲府市、西山梨郡 | 引佐郡、麓玉郡 | 敷知郡、長上郡、濱名郡 | 磐田郡、豐田郡、山名郡 | 周智郡 | 佐野郡、城東郡 | 榛原郡 | 志太郡、益津郡 | 靜岡市、有渡郡、安倍郡 | 庵原郡 | 富士郡 |
| 賀 | | | 滋 | | | | 梨 | | | | | |
| 木ノ本 | 長濱 | 彦根 | 愛知川 | 八幡 | 水口 | 草津 | 大津 | 猿橋 | 谷村 | 韭崎 | 龍王 | 鰍澤 |
| 伊香郡、西淺井郡 | 坂田郡、東淺井郡 | 犬上郡 | 神崎郡、愛知郡 | 蒲生郡 | 甲賀郡 | 栗太郡、野洲郡 | 滋賀郡 | 北都留郡 | 南都留郡 | 北巨摩郡 | 巾巨摩郡 | 南巨摩郡、西八代郡 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|---------|---------|---------|----------|----------|---------|---------------------|-----|
| 阜 | | | | | 岐 | | | | | | | 今津 |
| 多治見 | 御嵩 | 太田 | 八幡 | 上有知 | 北方 | 楫斐 | 大垣 | 高田 | 高須 | 笠松 | 岐阜 | 高島郡 |
| 土岐郡 | 可兒郡 | 加茂郡 | 郡上郡 | 武儀郡 | 本巢郡、席田郡 | 大野郡、池田郡 | 安八郡、不破郡 | 多岐郡、上石津郡 | 海西郡、下石津郡 | 羽栗郡、中島郡 | 岐阜市、厚見郡、各務郡、方縣郡、山縣郡 | |
| 長 | | | | | | | | | | | 中津川 | 惠那郡 |
| 鹽崎 | 大町 | 豊科 | 松本 | 福島 | 飯田 | 伊那 | 上諏訪 | 上田 | 岩村田 | 臼田 | 高山 | |
| 埴科郡、更級郡 | 北安曇郡 | 南安曇郡 | 東筑摩郡 | 西筑摩郡 | 下伊那郡 | 上伊那郡 | 諏訪郡 | 小縣郡 | 北佐久郡 | 南佐久郡 | 大野郡、益田郡、吉城郡 | |

| 宮 | | | | | | | | | | 野 | | |
|---------|-----|-----|-----|------|---------|---------|-----|---------|------|------|---------|---------|
| 石 | 本 | 佐 | 築 | 涌 | 古 | 吉 | 長 | 仙 | 飯 | 長 | 中 | 須 |
| 卷 | 吉 | 沼 | 館 | 谷 | 川 | 岡 | 町 | 臺 | 山 | 野 | 野 | 阪 |
| 牡鹿郡、桃生郡 | 本吉郡 | 登米郡 | 栗原郡 | 遠田郡 | 志田郡、玉造郡 | 黒川郡、加美郡 | 名取郡 | 仙臺市、宮城郡 | 下水内郡 | 上水内郡 | 下高井郡 | 上高井郡 |
| 福 | | | | | | | | | | | | |
| 棚 | 高 | 阪 | 喜 | 若 | 田 | 須 | 郡 | 二 | 桑 | 福 | 角 | 大 |
| 倉 | 田 | 下 | 多 | 松 | 島 | 賀 | 山 | 本 | 折 | 島 | 田 | 河 |
| 東白川郡 | 大沼郡 | 河沼郡 | 耶麻郡 | 北會津郡 | 南會津郡 | 岩瀬郡 | 安積郡 | 安達郡 | 伊達郡 | 信夫郡 | 伊具郡、亶理郡 | 柴田郡、刈田郡 |

| 手 | | | | | | 島 | | | | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------|---------|---------------|-------------------|----------|---------|-------------|-----|-----------|------|
| 宮 | 遠 | 盛 | 一 | 水 | 花 | 盛 | 中 | 富 | 平 | 三 | 石 | 白 |
| 古 | 野 | | 關 | 澤 | 卷 | 岡 | 村 | 岡 | | 春 | 川 | 河 |
| 東閉伊郡、中閉伊郡、北閉伊郡 | 西閉伊郡、南閉伊郡 | 氣仙郡 | 西磐井郡、東磐井郡 | 膽澤郡、江刺郡 | 稗貫郡、東和賀郡、西和賀郡 | 盛岡市、南閉手郡、北閉手郡、紫波郡 | 行方郡、宇多郡 | 柵葉郡、標葉郡 | 菊多郡、磐前郡、磐城郡 | 田村郡 | 石川郡 | 西白河郡 |
| 山 | | | 森 | | | | | | 青 | | | |
| 寒 | 天 | 山 | 八 | 田 | 七 | 五 | 黒 | 弘 | 鯨 | 青 | 福 | 久 |
| 河 | 童 | 形 | 戸 | 名 | 戸 | 所 | 石 | 前 | ヶ | 森 | 岡 | 慈 |
| 江 | | | 部 | 部 | 原 | 川 | 津 | 市 | 澤 | 津 | 二 | 南 |
| 西村山郡 | 東村山郡 | 山形市、南村山郡 | 下北郡 | 上北郡 | 北津輕郡 | 南津輕郡 | 弘前市、中津輕郡 | 西津輕郡 | 東津輕郡 | 二戸郡 | 南九戸郡、北九戸郡 | |

| 秋 | | | | | 形 | | | | | | | |
|-----|------|-----|---------|---------|----------|------|------|-------------|------|------|-----|------|
| 本庄 | 鷹巢 | 能代 | 土崎 | 秋田 | 米澤 | 長井 | 高畑 | 酒田 | 鶴岡 | 藤島 | 新庄 | 楯岡 |
| 由利郡 | 北秋田郡 | 山本郡 | 南秋田郡 | 秋田市、河邊郡 | 米澤市、南置賜郡 | 西置賜郡 | 東置賜郡 | 飽海郡 | 西田川郡 | 東田川郡 | 最上郡 | 北村山郡 |
| 井 | | | 福 | | | | 田 | | | | | |
| 大聖寺 | 高濱 | 雲濱 | 敦賀 | 朝日 | 武生 | 大野 | 三國 | 福井 | 花輪 | 湯澤 | 横手 | 城曲 |
| 江沼郡 | 大飯郡 | 遠敷郡 | 敦賀郡、三方郡 | 丹生郡 | 南條郡、今立郡 | 大野郡 | 阪井郡 | 福井市、足羽郡、吉田郡 | 鹿角郡 | 雄勝郡 | 平鹿郡 | 仙北郡 |

| 鳥 | | 山 | | | 富 | | | 川 | | | 石 | | |
|-------------|-----------------|-----|---------|------|--------------|---------|-----|-----------------|-----|---------|-------------|---------|--|
| 郡 | 鳥 | 出 | 高 | 魚 | 富 | 飯 | 輪 | 七 | 羽 | 金 | 松 | 小 | |
| 家 | 取 | 町 | 岡 | 津 | 山 | 田 | 島 | 尾 | 咋 | 澤 | 任 | 松 | |
| 八上郡、八東郡、智頭郡 | 鳥取市、邑美郡、法美郡、岩井郡 | 磯波郡 | 高岡市、射水郡 | 下新川郡 | 富山市、上新川郡、婦負郡 | 珠洲郡 | 鳳至郡 | 鹿島郡 | 羽咋郡 | 金澤市、河北郡 | 石川郡 | 能美郡 | |
| 根 | | | | 島 | | | | 取 | | | | | |
| 益田 | 濱田 | 川本 | 大森 | 掛合 | 今市 | 大東 | 廣瀬 | 松江 | 二部 | 米子 | 倉吉 | 吉岡 | |
| 美濃郡 | 那賀郡 | 邑智郡 | 瀨摩郡、安濃郡 | 飯石郡 | 出雲郡、楯縫郡、神門郡 | 仁多郡、大原郡 | 能養郡 | 松江市、島根郡、秋鹿郡、意宇郡 | 日野郡 | 汗入郡、會見郡 | 河村郡、久米郡、八橋郡 | 高草郡、氣多郡 | |

| 愛 | | 川 | | | 香 | | 島 | | | | | |
|-------------|---------|---------------------|-------------|-----|---------|-----------|---------|-------------|-----|----------|---------|-----|
| 西條 | 今治 | 松山 | 長尾 | 土庄 | 觀音寺 | 丸龜 | 阪出 | 高松 | 池田 | 脇町 | 川島 | 撫養 |
| 新居郡、周布郡、桑村郡 | 越智郡、野間郡 | 松山市、風早郡、和氣郡、温泉郡、久米郡 | 大内郡、寒川郡、三木郡 | 小豆郡 | 三野郡、豊田郡 | 那珂郡、多度郡 | 阿野郡、鵜足郡 | 高松市、山田郡、香川郡 | 三好郡 | 美馬郡 | 阿波郡、麻植郡 | 板野郡 |
| 知 | | 高 | | | 媛 | | | | | | | |
| 須崎 | 伊野 | 高知 | 後免 | 赤岡 | 安藝 | 宇和島 | 卯ノ町 | 八幡濱 | 大洲 | 郡中 | 久万町 | 川之江 |
| 高岡郡 | 吾川郡 | 高知市、土佐郡 | 長岡郡 | 香美郡 | 安藝郡 | 南宇和郡、北宇和郡 | 東宇和郡 | 西宇和郡 | 喜多郡 | 下浮穴郡、伊豫郡 | 上浮穴郡 | 宇摩郡 |

| 福 | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------------------|-----|---------|---------|---------|-------------|-------------|---------|------------------|-----|-----|-----|
| 中村 | 福岡 | 東郷 | 蘆屋 | 直方 | 飯塚 | 甘木 | 今宿 | 吉井 | 久留米 | 大川 | 柳河 | 三池 |
| 幡多郡 | 福岡市、御笠郡、那珂郡、席田郡、粕屋郡 | 宗像郡 | 遠賀郡 | 鞍手郡 | 嘉摩郡、穂波郡 | 上座郡、夜須郡、下座郡 | 怡土郡、志摩郡、早良郡 | 生葉郡、竹野郡 | 久留米市、御井郡、御原郡、山本郡 | 三潞郡 | 山門郡 | 三池郡 |
| 大 | | | | | | 岡 | | | | | | |
| 福岡 | 小倉 | 香春 | 行橋 | 八屋 | 玉津 | 國崎 | 日出 | 大分 | 臼杵 | 佐伯 | 三重 | 竹田 |
| 上妻郡、下妻郡 | 企救郡 | 田川郡 | 京都郡、仲津郡 | 築城郡、上毛郡 | 西國東郡 | 東國東郡 | 速見郡 | 大分郡 | 北海郡 | 南海郡 | 大野郡 | 直入郡 |

| 鹿 | | | | | | | 佐賀 | | | | | | | 分 | | | | | |
|-----|---------|------------------|-----------------|--------------|----------|------------------|------|------|------|------|----------|-------------|-----|---------|-----------|-----|------------------|-----|---|
| 出 | 隈ノ | 伊集院 | 知覽 | 鹿兒島 | 高千穂 | 延岡 | 熊本 | 鹿島 | 武雄 | 伊萬里 | 唐津 | 小城 | 森木 | 神埼 | 佐賀 | 四日市 | 中津 | 豆田 | 森 |
| 水郡 | 阿多郡、日置郡 | 給黎郡、損宿郡、額姓郡、川邊郡、 | 鹿兒島市、鹿兒島郡、霧山郡、北 | 西臼杵郡 | 東臼杵郡 | 熊本市、鉾田郡、託麻郡、宇土郡、 | 藤津郡 | 杵島郡 | 西松浦郡 | 東松浦郡 | 小城郡 | 基肄郡、三根郡、養父郡 | 神埼郡 | 佐賀市、佐賀郡 | 宇佐郡 | 下毛郡 | 日田郡 | 玖珠郡 | |
| 島 | | | | | | | 崎 | | | | 本 | | | | 熊 | | | | |
| 大島々 | 種子島 | 鹿屋 | 岩川 | 加治木 | 大 | 高鍋 | 高岡 | 小林 | 都城 | 飯肥 | 宮崎 | 町山 | 人吉 | 八代 | 御船 | 宮地 | 隈府 | 高瀬 | |
| 大島郡 | 熊毛郡、馱謨郡 | 肝屬郡、南大隅郡 | 東嶺峯郡、南諸縣郡 | 始良郡、桑原郡、西嶺峯郡 | 北伊佐郡、菱刈郡 | 兒湯郡 | 東諸縣郡 | 西諸縣郡 | 北諸縣郡 | 南那珂郡 | 宮崎郡、北那珂郡 | 大草郡 | 球摩郡 | 八代郡、葦北郡 | 上益城郡、下益城郡 | 阿蘇郡 | 山鹿郡、山本郡、菊池郡、合志郡、 | 玉名郡 | |

第二十七類 地方税 備荒儲蓄

○地方税

○明治二十三年法律第三號ハ府縣制施行ノ地

方ニ限り廢止ス 明治二十三年八月
法律第七十四號

朕明治二十三年法律第三號ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年一月法律第三號ハ府縣制施行ノ地方ニ限り之ヲ廢止ス但シ府縣
制施行以前法律第三號第二條ニ依リ既ニ備荒儲蓄金ヨリ借入ノ契約ヲ爲シ
未タ其借入ヲ了ラサルモノハ其契約ヲ繼續スルコトヲ得

○府縣稅徵收法 明治二十三年九月
法律第八十八號

朕府縣稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅徵收法

第一條 市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務
アルモノトス

地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其
市町村ニ交付スヘシ但東京市京都市大阪市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償ス

ルノ責ニ任スヘシ

第三條 市町村ハ避シヘカラサル變災ニ罹リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコトヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ交付スルコトヲ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人及徵稅令書ヲ受ケタル市ノ各納稅人ハ稅金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其領收證書ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

市町村ハ其徵收シタル稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス

第七條ニ依ル各納稅人ハ稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

第九條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限ノ處分ヲ受ケルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先チ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅ノ例ニ依ル

第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲スヘキ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方稅ノ徵收ニ適用ス

第十五條 此法律ハ明治二十四年所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ス

第二十八類 社寺

○社寺

○明治十四年乙第三十三號達(社寺總代人選舉
竝ニ社寺財産取調方)中改正追加明治二十四年五
月内務省訓令第
八號

北海道廳 府縣

明治十四年當省乙第三十三號達中共有ノ二字ヲ社寺有ト改メ末條ニ左ノ一
項ヲ増補ス

總代人ハ滿三年毎ニ改撰市町村役場若ハ戸長役場へ届出シムヘシ尤モ期
限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改撰セシムヘシ
但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ

○府縣鄉村社神官奉務規則明治二十四年七月
内務省訓令第十二號

北海道廳 府縣

府縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改正ス

府縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘ

シ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

第二十九類 勸業 鑛山 森林

○勸業

○蹄鐵工免狀同假免狀下付願書及免許願書及免許試驗願書ハ副本ヲ要セス
明治二十三年九月
農商務省訓令第五十二號

北海道廳 府縣

蹄鐵工免狀同假免狀下付願書及免許試驗願書ハ副本差出スニ及ハス

○米麥作柄農商務省へ報告方
明治二十三年十一月
農商務省訓令第六十號二

北海道廳 府縣

米麥作柄當省へ報告ノ節ハ前期十箇年間收穫高ノ平均數ヲ以テ後期十箇年間ノ平均作ト定メ其増減歩合ハ百分率ヲ用フヘシ

但明治二十三年ヨリ向フ十箇年間ハ明治十三年ヨリ明治二十二年ニ至ル十箇年間收穫高ノ平均數ヲ取り自後每期遞次此例ニ據ルヘシ

○官有森林原野及産物特別處分規則中追加
明治二十

三年十一月勅令
第二百八十二號

官有森林原野及產物特別處分規則ハ法令編第三卷第百五十五丁ニ載ス

朕官有森林原野及產物特別處分規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年四月勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則中左ノ通

追加ス

第一條

十八 河海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキ

第三條 農務商大臣ハ相當ノ年限ヲ定メ社寺上地官林全部又ハ幾分ヲ該社寺ニ委託シ其林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其林地ノ產物ヲ下附スルコトヲ得

○同上第四條追加
明治二十四年六月
勅令第六十六號

朕官有森林原野及產物特別處分規則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年四月勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則中左ノ通追加ス

第四條 農務商大臣ハ社寺上地官林又ハ特別ノ緣故アル官有森林原野ニシテ存置ヲ要セスト認メタルモノハ其社寺又ハ其緣故アル者ニ限り隨意ノ契約ヲ以テ賣渡スコトヲ得

○各地方ニテ褒賞ヲ附與スヘキ博覽會共進會
等開設ノトキ報告方
明治二十四年一月
農商務省訓令第三號

道廳 府 縣

各地方ニ於テ博覽會共進會其他之ニ類似ノ會ニシテ褒賞ヲ附與スルモノヲ開設シタルトキハ左ノ書式ニ準シ閉會後其都度々々三十日限リ報告スヘシ
但明治十九年當省訓令第三號ハ廢止ス

明治何年官設何會報告書

會場地名

國郡町名

會名

何博覽會何共進會ト記スヘシ(暨ヘハ水産博覽會關聯共進會ト云フカ知シ)其ナキモノハ單ニ博覽會共進會物產會展覽會品評會ト記スヘシ

會主

何廳府縣或ハ何會社或ハ何某

開場

何月何日

褒賞授與式

何月何日

閉場

何月何日

出品區域

何府縣聯合或ハ一管下一般或ハ何區郡何町村聯合

出品人員

何人

出品員數

若干

出品總價

何圓錢

第六號

試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

○鑛業條例 明治二十三年九月 法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡痼ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛

業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添へ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス
試掘人前項ノ期限内ニ於テ其事業ヲ竣へ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

出品種類
 出品賣數
 出品賣價總額
 褒賞總人員
 褒賞等級別
 褒賞々與物件
 來觀人員
 通券價格
 通券收額
 會費總額
 會費區別

農産水産或ハ陶器漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農産水産ハ其物
 品ヲ詳細ニ記スヘシ
 若干
 何圓錢
 何人
 一何人二何人三何人褒狀何人追賞何人功勞賞何
 人協贊賞何人
 杯或ハ牌或ハ何物品或ハ金圓(譬ヘハ一等何物品或ハ金何圓二等何々等
 成ルヘク詳細ニ記スヘシ
 何人
 何錢(日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ)
 何圓錢
 何圓錢
 地方稅何圓通券料何圓或ハ釀金義捐金等成ルヘク詳細
 ニ記スヘシ

本會景況云々
 (譬ヘハ特殊發見ノ鑛物或ハ有用植物ノ近來生殖セル者或ハ陶器漆器織物
 其他製作品ノ著ルク改良進步セシ者或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作
 移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモ
 ノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農産物水産物ニ關シ會
 場ノ景況ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ヘク詳

茶業組合規則ハ法
 令類編第二卷第九
 十六丁ニ載ス

密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ揭ケ又民設ニ係ルモノハ
 其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ
 右報告候也
 北海道廳長官府縣知事 氏名

○茶業組合規則第二十七條中追加
 明治二十四年三月農商務省令第三號

明治二十年十二月當省令第四號茶業組合規則第二十七條產額ノ下「又ハ開
 港地輸送額」ノ九字ヲ挿入ス

○北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜貸渡
 ハ隨意契約ニ依ルヲ得
 明治二十四年七月勅令第六十三號

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁
 可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコ
 トヲ得

○鑛山

○試掘願書ニ添付スル圖面記載方
 明治二十三年八月農商務省告示

第六號

試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

○鑛業條例 明治二十三年九月 法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非ザレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛

業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス
第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス
試掘人前項ノ期限内ニ於テ其事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

第十二條 探掘ノ特許ヲ得シト欲スル者ハ探掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

探掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ離キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サハルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條 探掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ探掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ探掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及探掘出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス

第十六條 試掘又ハ探掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト探掘トニ係ルトキハ先ツ探掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條 農商務大臣探掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條 試掘若ハ探掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長、探掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條 試掘若ハ探掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長探掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ探掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 他人所屬ノ鑛区内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火

藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サハルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サハルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇

年以内ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農務商大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農務商大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農務商大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ
鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農務商大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可

ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農務商大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農務商大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農務商大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農務商大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製産物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出サ、ルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀鑛床ノ位置形ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添へ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ
鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ
測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帯スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
- 一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲
- 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲
- 一 鑛業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

- 一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ
- 一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サ、ルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其

ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサハルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡借地料保證金損害賠償金又ハ土地買賣代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得
所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ違ヲ受ケタル日ヨ

リ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料保證金、損害賠償金若ハ土地買賣代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ買賣代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
- 一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
- 一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ探掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採鑛及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ
- 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ
- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
- 一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
 - 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ
 - 一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ
- 第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事理ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ
- 鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得
- 第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂フ爲スコトヲ得ス
- 第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ
- 第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得
- 一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト
 - 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト
 - 一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト
 - 一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
 - 一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト
 - 一 前項ノ負傷ニ由リ痲疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト
- 第七章 鑛業税及鑛區税
- 第七十三條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス
- 鑛鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セス
- 第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル
- 第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ
- 鑛區税ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月二十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月

割ヲ以テ探掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納稅期限内ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ探掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 特許ヲ得シテ探掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得シテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ逋徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後

見人ヲ處罰ス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

○試掘地坪數制限 明治二十三年十月農商務省令第十三號

試掘地ノ坪數ハ日本坑法第九款第五項ノ制限ニ據ルヘシ

○鑛業ニ關スル出願等手續中刪除 明治二十三年十月農商務省令第十四號

本年當省令第七號附屬第一號雜形中記事第一項ヲ刪除ス

○北海道廳管内ニ於ケル試掘借區其他鑛業ニ關スル諸願書式準據方 明治二十三年十月農商務省告示第八號

關スル諸願書式準據方 明治二十三年十月農商務省告示第八號

鑛業ニ關スル出願手續ハ法令類編第十卷第二十九類丁ニ載ス

北海道廳管内ニ於ケル試掘借區其他鑛業ニ關スル諸願書ハ本年七月當省令第七號ニ據リ自今直チニ當省ヘ差出スヘシ

○日本坑法ニ依リ試掘借區ノ取消及ヒ土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續 明治三十三年十一月農商務省令第十九號

三十三年十一月農商務省令第十九號

日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘若ハ借區ノ取消ヲ請求スル者及第二十二款第二項ニ依リ土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續左ノ通相定ム

第一條 日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區許可ノ取消ヲ請求セント欲スル者ハ詳ニ其ノ理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 第二十二款第二項ニヨリ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用セントスルトキハ其ノ所有者又ハ關係人ト協議調ハサル場合ニ於テハ裁定請求書ニ其ノ土地ヲ必要トスル理由由書建設スヘキ工事ノ設計書詳細ノ實測圖面其ノ他關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 地方長官ニ於テ第一條又ハ第二條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ副書ヲ對手人ニ送附スヘシ

第四條 坑業人土地所有者又ハ關係人第三條ニ依リ請求書ヲ受取りタルトキハ其到達ノ日ヨリ十五日以内ニ農商務大臣宛ニテ辯明書若クハ理由書ヲ作り其請求書ト共ニ地方長官ニ差出スヘシ若シ此期限ヲ過クルトキハ意見ヲ申立ルコトヲ得ス

第五條 地方長官ニ於テ第四條ノ辯明書若クハ理由書ヲ受理シタルトキハ十五日以内ニ雙方申立ノ事實圖面等ヲ調査シ書類ヲ添ヘ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ

○鑛山試掘借區ノ願書ニ圖面三葉添付
明治二十四年三月
農商務省
令第四號

明治二十四年五月一日以後鑛山試掘若クハ借區ノ願書ニハ圖面三葉ヲ添フヘシ

○明治十九年省令第四號(鑛山借區證券引揚處分ヲ受ケタル者試掘借區ヲ許可セサル件)中
削除 明治二十四年六月
農商務省令第六號

明治十九年三月 本省令第四號中及ヒ試掘期限經過ノ八字ヲ削除ス

○借區繼年期願ハ滿期後三十日マテニ差出サ
シム 明治二十四年七月
農商務省令第九號

借區繼年期限ハ滿期後卅日迄ニ差出スヘシ此期限ヲ經過スル者ハ受理セス

○森林

○官有山林原野事項報告書式
明治二十四年三月農
商務省訓令第十五號
北海道廳 府縣

官有山林原野事項報告書式別冊ノ通相定候條本年四月分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ
但本樣式中第十號ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別ニ調製シテ四月三十日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山林局ヨリ送付ス (別冊見之)

○官林事項報告書式改定
明治二十四年三月農
商務省訓令第十六號
各大林區署

官林事項報告書式別冊ノ通改定候條本年分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ
但本樣式中第十表及第十五表ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別

ニ調製シテ四月末日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山林局ヨリ送付ス (別冊略之)

○社寺上地官林委託規則 明治二十四年四月 農商務省令第五號

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第三條ニ據リ社寺上地官林委託規則左ノ通之ヲ定ム

社寺上地官林委託規則

第一條 社寺ニ於テ上地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ願書ニ其ノ創立ノ年代由緒資格出願地ノ字名區域段別樹種別木數(竹ハ三寸回リ以上ノ數量)維持方法氏子檀徒信徒ノ概數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ圖面ヲ添ヘ神官住職及ヒ氏子檀徒總代氏子檀徒ナキモハ信徒總代三名以上連署シ寺院ハ管長ノ與書ヲ經テ所轄大林區署長ニ差出スヘシ

第二條 社寺上地官林ノ委託ハ此ノ規則中特ニ定メタル場合ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過シ尙ホ引續キ其ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 社寺ハ委託前他人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限内ニ係ルモノヲ除クノ外委託官林内ノ副產物(即チ樹實菌莖落枝落葉下草晚筍ノ類)ヲ無代價ニテ收得スルコトヲ得

第四條 社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林内ニ建造物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽植シ若クハ林地ヲ使用スルコトヲ得
前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サス

第五條 社寺ハ風地其ノ他水源涵養土砂扞止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林區署ニ納付スヘシ

第六條 社寺ハ其建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林内在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂扞止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得
前項ニ據リ賣渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉賣シ若クハ讓與シタルトキハ其ノ賣渡代價ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第七條 社寺ハ其ノ委託官林保護ノ責ニ任シ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スヘシ
前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭

ニ表記スヘシ

第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林内ニ竹木栽植ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ標杭ヲ建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請ケタル委託官林内ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第九條 社寺ニ於テ委託官林内ノ竹木ヲ斫伐シ副産物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘシ

第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲナサントスルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官住職及ヒ氏子檀徒若クハ信徒總代ノ連署ヲ要ス

第十二條 斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受クルニアラサレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノ、外掘採スルコトヲ得ス

第十三條 社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ速ニ所轄大林區署長ニ届出ヘシ

但第二第三第四及ヒ第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ノ検査ヲ受クヘシ

一 看守人ヲ置キ又ハ廢シタルトキ

二 委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ

三 道路電線耕地宅地家屋等ニ對スル障害木アリタルトキ

四 林地ノ使用若クハ栽植ヲ終ハリタルトキ但竹木ノ栽植ヲナシタルトキハ其ノ栽植實費取調書ヲ添付スヘシ

五 竹木ヲ斫伐シ及ヒ運搬ヲ終ハリタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

一 官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但此場合ニ於テハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其ノ栽植實費ヲ賠償ス

二 此ノ規則ニ定メタル制限及ヒ條件ニ違背シタルトキ但社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス

第十六條 竹木及ヒ副産物ノ斫伐採取其ノ他林地使用ノ爲メ若クハ故意慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生シ又ハ生セントスルトキハ所轄大林區署長ハ其ノ斫伐採取使用ヲ停止シ若クハ禁止シ尙ホ其ノ委託ヲ解クコトヲ得前項ノ場合ニ於テ損害アルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任スヘシ

第十七條 社寺ニ於テ此規則ヲ履行スルニ因リテ生スル費用ハ社寺ノ負擔トス

○森林施業ニ要スル諸案簿表

明治二十四年四月農商務省訓令第十七號

大林區署

今般森林施業ニ要スル諸案簿表附錄別冊ノ通り相定メ來ル二十三年度ヨリ實施ス

但施業案編製心得及製圖式ハ山林局ヨリ送付ス(圖式畧之)

○官有林野ノ立木又ハ木材ノ檢查及引渡用極

印雛形並使用方

明治二十四年七月農商務省令第八號

府縣 大林區署

官有林野ノ立木又ハ木材ノ檢查及引渡ニ用ユル極印雛形ノ通り相定候條自今左ノ區別ニ依リ使用ス可シ

- 一 第一號雛形檢印ハ賣渡讓與ヲ爲スニ當リ豫メ其立木及木材ノ檢查ヲ爲セシトキ又ハ之レカ伐跡檢查ヲ爲セシトキ其證トシテ打印スヘシ
- 二 第二號雛形拂印ハ賣渡讓與ヲ爲セシ證トシテ其立木及木材ニ打印スヘシ

三 第三號雛形山印ハ賣渡木ノ根株盜誤伐木材及其伐跡、境界木其他區域ヲ定メ賣渡シタル林野中存置ヲ要スヘキ立木及其境木等ニ打印スヘシ

四 以上三項ノ外地方ニヨリ特ニ使用ヲ要スル場合ニハ總テ山印ヲ適用スヘシ

五 檢印拂印ハ黒肉ヲ用ヒ山印ハ黒朱肉適宜使用スルモ妨ナシ

六 極印ヲ誤打セシトキハ朱肉ノ同印ニテ消印スヘシ

但朱肉ヲ用ヒタル山印ヲ消印スルトキハ黒肉ヲ用ユヘシ

(雛形畧之)

○官有森林原野ノ公賣ハ林產物公賣規程ニ準

據明治二十四年七月農商務省告示第七號

官有森林原野ノ公賣ハ明治二十三年五月當省告示第四號林產物公賣規程ニ準シ施行ス

第三十類 商事

○商法

○商法施行條例 明治二十三年八月
法律第五十九號

朕商法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商法施行條例

第一條 商法第二十六條、第二十九條及ヒ第二百十條ニ定メタル一地域トハ各町村ノ一區域ヲ謂ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ謂フ

一地域内ニ二箇以上ノ區裁判アルトキハ其内一箇所ヲ以テ登記簿ヲ取扱フ所トス其裁判所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第二條 會社ニ非スシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス又從來之ヲ用ユル者ハ商法實施ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ改ム可シ前規ノ規定ニ違フ者ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第三條 商法第五百十九條、第六十六條、第六十八條、第二百二十二條ノ規定ニ依リテ官廳ニ差出ス書類及ヒ展閱ニ供スル書類ハ公證人ノ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テスルコトヲ得

公證人謄本認證ノ依頼ヲ受ケタルトキハ一件ニ付キ金拾錢ノ手数料若シ認證ト共ニ謄寫ノ依頼ヲ受ケタルトキハ公證人規則第六十五條ノ謄本手数料ヲ受クルコトヲ得

第四條 商法第二百二十二條ニ依リ諸書類ノ展閱ヲ求ムル者アルトキハ其請求者ヨリ一八ニ付一日五十錢以下ノ手数料ヲ受クルコトヲ得

第五條 本條例發布前ヨリ既ニ設立シタル各會社ハ商法實施ノ日ヨリ六个月内ニ商法第七十八條、第三百二十八條、第六十八條ニ準シテ登記ヲ受ク可シ之ヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ過料ニ處シ且地方裁判所ノ命令ヲ以テ其營業ヲ差止ム但其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ期限内ニ登記ヲ受ケサル既設會社ハ其期限經過ノ時ヨリ第三者ニ對シテ會社ナル効ヲ失フ

第七條 商法第八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス
第八條 既設會社ハ從來ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但商法第一百三條及ヒ第三百二十九條第二項ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ三個月ノ後既設會社ノ商號ニモ之ヲ適用ス

既設會社ノ商號ニハ其會社ノ種類ニ從ヒ合名會社合資會社又ハ株式會社ノ文字ヲ附ス可シ

第九條 既設合名會社ハ其社員ノ數商法第七十四條ノ定員ニ超ユルモ其現社員ノ數ニ依ルコトヲ得但定員以下ニ減シタル場合ニ於テハ更ニ増員シテ其定員ニ超ユルコトヲ得ス

第十條 既設株式會社ハ商法第五十六條ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス
既設株式會社ハ商法實施ノ日ヨリ六个月内ニ地方長官ヲ經由シテ定款ヲ主務省ニ差出シ其定款ノ認可ヲ受ク可シ但其定款ニ法律命令ニ反スチ事ヲ掲ケタルモノハ之ヲ改正スルニ非サレハ認可スルノ限ニ在ラス

從來官許ヲ得テ設立シタル株式會社ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但開置又ハ人民ノ相對ニ任ス等ノ指令ヲ得テ設立シタルモノハ此限ニ在ラス
本條第二項ニ依リ認可ヲ受ク可キ株式會社ニ在テハ第五條ノ登記期限ハ其認可ヲ得タル日ヨリ起算ス

右ノ認可ヲ得タル日ヨリ六个月内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其認可ハ効力ヲ失フ

第十一條 既設株式會社ハ其ノ株券ノ金額商法第七十五條ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十二條 既設株式會社ハ其定款ニ於テ第一回ノ株金拂込ヲ四分一以下ニ定メタルトキハ商法第六十七條第二項ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十三條 既設株式會社ノ創業ニ付テノ義務及ヒ出費ニシテ會社ノ承認ヲ經タルモノハ第五條ノ登記ヲ受ケサル前ニ於テモ商法第七十一條ノ規定ニ拘ハラス會社ニ於テ之ヲ負擔ス

第十四條 既設株式會社ノ既ニ發行シタル株券ハ商法第七十六條ニ反スルモノ有ルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第十五條 既設株式會社ニ於テ株金全額ノ拂込前ニ發行シタル株券ハ其全額拂込ニ至ルマテハ之ヲ假株券ト看做ス

第十六條 既設株式會社ノ株券ニシテ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ既ニ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權擔保ニ供シタルモノニ付テハ商法第八十條ノ規定ヲ適用セス

第十七條 既設株式會社ノ株式ノ讓渡人ニ付テハ商法第八十二條ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ二個年之間之ヲ適用セス

第十八條 既設株式會社ニ於テ既ニ其定款ヲ以テ株主ノ議決權ニ制限ヲ立テタルモノハ商法第二百四條ノ規定ニ反スルモ其定款ニ從フコトヲ得

第十九條 商法第七十七條第一項ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第二十條 商法及ヒ本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ

第二十一條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條、第三百

一條、第二百三十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁判所ニ於テ命令ヲ發スルトキハ當事者ヲシテ説明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出スヲ通例トス但當事者缺席スルモ命令書ハ之ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ豫メ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス

第二十四條 商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七日トス

第二十五條 前條ニ掲ケタルモノ、外抗告ニ關スル手續ニ付テハ民事訴訟法第四百五十五條、第四百六十條第一項第二項、第四百六十五條及ヒ第四百六十六條第一項第二項第四項ヲ除ク外總テ同法第三編第三章ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス可キ手形ニハ捺印スルコトヲ要セス

第二十七條 商法第七百九十條ニ掲ケタル裁判所役員ハ執達吏トス
第二十八條 商法第八百二十五條ニ掲ケタル十五噸以上ノ船舶中ニハ日本形船舶百五十石以上ノモノヲ包含ス

第二十九條 商法實施前ヨリ既ニ航海ノ用ニ供スル船舶ハ商法實施ノ日ヨリ一个年内ニ商法第八百二十五條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 商法第四百九十三條及ヒ第五百十七條ニ國內水上ト稱スルハ川湖港灣ヲ謂フ

第三十一條 遞信大臣ハ其地ノ形狀ト危險ノ程度トニ應シテ適宜ニ港灣ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 商法第八百六十七條及ヒ第九百六十六條ニ沿岸航海ト稱スルハ專ラ本邦海岸ニ沿テ航行シ外國ニ至ラサルモノヲ謂フ但本邦ノ版圖ニ屬スル諸島地トノ航行ハ亦沿岸航海ニ屬ス

第三十三條 商法第九百三十六條ニ掲ケタル沿岸小航海ノ區域ハ從來ノ慣習ト海上危險ノ程度トヲ酌量シテ遞信大臣之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 商法第八百三十六條及ヒ第九百三十四條ニ官ト稱スルハ内國ニ於テハ區裁判所外國ニ於テハ日本領事若シ領事ナキトキハ其地ノ官廳トス

第三十五條 司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聽キ其所轄地方ノ需用ニ應

シテ破産管財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ依リ破産管財人名簿ヲ作ル可シ

第三十六條 破産管財人タルノ命ヲ受ケタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十七條 破産管財人ノ任期ハ三ヶ年トス但再任セラルルコトヲ得

第三十八條 名簿中ノ破産管財人破産裁判所ヨリ選定セラレタルトキハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十九條 破産管財人ハ其職務ニ著手スル前公平誠實ニ其職務ヲ執ルコトヲ誓フ可シ

第四十條 破産管財人ハ其擔任スル破産手續中任期滿ツルモ之ヲ終結スルマテ解任スルコトヲ得ス

第四十一條 破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不適當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定ス可カラスト認ムルトキハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ其旨ヲ司法大臣ニ上申ス可シ

前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人ト同一ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十二條 職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ解クトキハ破産裁判所ノ公廷ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡ス可シ

第四十三條 管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其分割ヲ以テ之ヲ支拂フ可

第四十四條 第三十六條及第三十八條ノ規定ニ違フ者ハ刑法第百七十九條ノ罰金ニ處ス

第四十五條 商法第千二條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ勾留若クハ監守セントスルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ其勾留ニ係ル者ハ之ヲ所屬留置場ニ送致セシメ監守ニ係ル者ハ債務者ノ住所ヲ管轄スル警察官署ニ命シ其處分ヲ爲サシム

第四十六條 警察官廳ニ於テ債權者ノ申立ニ因リ債務者ヲ勾留若クハ監守セントスルトキハ命令書ヲ發シテ之ヲ所屬留置場ニ送致セシメ又ハ監守ノ處分ヲ爲サシム此場合ニ於テハ警察官廳ハ同時ニ事由ヲ具シテ其旨ヲ管轄地方裁判所ニ通知ス可シ

第四十七條 司獄官吏債務者ヲ受取リタルトキハ刑事被告人ヲ受取リタル手續ニ準シ之ヲ留置場ニ入ル可シ其他債務者ノ取扱ハ總テ刑事被告人ニ異ナルコト無シ

勾留中債務者ノ食料其他ノ費用ハ商法第千三十二條ニ從ヒ破産財團ノ現額ヨリ之ヲ支拂ヒ不足アルトキハ留置場之ヲ負擔ス前條ノ場合ニ於テ債務者破産ニ至ラサルトキハ其申立人ノ支辨ス但申立人ハ申立ノ際右ノ費用ニ當ル金額ヲ豫納ス可シ

第四十八條 監守ヲ爲ストキハ警察官吏ヲシテ債務者ノ住所ニ就キ其逃走若クハ財産ノ隱匿ヲ豫防シ且其債務者ノ外人ト面接若クハ通信スルヲ禁セシム

第四十九條 商法第千三條第二項ニ依リ債務者ヲ引致スルトキハ特ニ作りタル引致狀ヲ以テ之ヲ執行ス但其執行ハ刑事訴訟法ニ定メタル勾引狀執行ノ手續ニ準ス

第五十條 商法第千四條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ釋放スルトキハ決定書ヲ檢事ニ送致シ其執行ヲ爲サシム

第五十一條 商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ定ムルモノノ外第百五十四條、第百七十一條、第四百四十一條、第四百九十九條、第五百十四條、第八百五十六條、第九百二條ノ事件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ地方裁判所トス

第五十二條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ニ依リ管轄廳ノ免許ヲ得タル質屋營業人ニハ商法第一編第七章第九節ノ規定ヲ適用セス

第五十三條 明治六年第二十五號布告代人規則ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

明治十年第六十六號布告利息制限法第三條及ヒ第五條ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

明治十五年第五十七號布告爲替手形約束手形條例ハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○商法ニ依リ株式會社債券發行方明治廿三年八月法律第六十號

朕商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商法第二百六條ニ依リ株式會社債券ヲ發行スルハ總株金半額以上ノ拂込アリタル後ニ於テスヘシ

第二條 債券ノ發行額ハ株金ノ拂込金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 債券ヲ發行セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認許ヲ受クヘシ

第四條 債券ハ一通毎ニ其債務金額、利子ノ歩合及仕拂時期、發行ノ年月日、番號、商號、社印、取締役ノ氏名、印、債權者ノ氏名ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ營業所
- 二 株金總額及株金拂込額
- 三 債券償還ノ初期及最終期
- 四 會社開業ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期

六 認許ヲ受ケタル事

第五條 株式會社ハ債券ヲ發行スルトキハ債券原簿ヲ備ヘ債券一通毎ニ區分シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 債權者ノ氏名住所

二 債券ノ金額番號

三 利子ノ歩合

四 債券發行ノ年月日及讓渡ノ年月日

第五條 債券償還ノ初期及最終期

第六條 債券ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ債券及債券原簿ニ記載スルニアラサレハ會社ニ對シテ其効ナシ

第七條 株式會社ハ營業時間中債券原簿ノ展閱ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此場合ニ於テハ請求人ニ對シテ二十錢以内ノ手数料ヲ索ムルコトヲ得

第八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 二 債券原簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

○商事非訟事件印紙法 明治二十三年八月 法律第六十六號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲グルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告又ハ假差押ノ申立
- 二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立
- 三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲グルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告ニ對スル答辯
- 二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非

訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除ス可キモノトス

| | |
|-----------------------|-------|
| 財團ノ價額五圓マテ | 四十錢 |
| 同 十圓マテ | 六十錢 |
| 同 二十圓マテ | 一圓二十錢 |
| 同 五十圓マテ | 三圓 |
| 同 七十五圓マテ | 四圓四十錢 |
| 同 百圓マテ | 六圓 |
| 同 二百五十圓マテ | 十三圓 |
| 同 五百圓マテ | 二十圓 |
| 同 七百五十圓マテ | 二十六圓 |
| 同 千圓マテ | 三十圓 |
| 同 二千五百圓マテ | 四十圓 |
| 同 五千圓マテ | 五十圓 |
| 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ | |

第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條 協諧契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス

○有罪破産者處斷方 明治二十三年十月 法律第百一號

朕商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治廿四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス
- 二 過意破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○沖繩縣ニ商法施行延期 明治二十三年十月 法律第百三號

朕沖繩縣ニ商法施行延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年法律第三十二號商法ハ沖繩縣ニ於テハ管分ノ内之ヲ施行セス

○商法及商法施行條例施行期限 明治廿三年十二月 法律第百八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法及商法施行條例施行期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年四月法律第三十二號商法及同年八月法律第五十九號商法施行條例ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

○商法ニ關スル法律施行期限 明治二十三年十二月 法律第百九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法ニ關スル法律施行期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 左ニ掲ケル法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
- 一 明治二十三年八月法律第六十六號商事非訟事件印紙法
- 一 同年八月法律第七十二號銀行條例
- 一 同年八月法律第七十三號貯蓄銀行條例

一 同年十月法律第百一號

○特許

○特許條例施行細則中加除改正明治二十三年八月農商務省令第十號

特許條例施行細則
ハ法令類編第二卷
千四百三十三丁ニ載
ス

明治二十二年農商務省令第一號特許條例施行細則中左ノ通り加除改正ス
第十條第一項中「審査部」ヲ「審査官」ト改メ第二項中「部」ニ於テ「ノ」四字ヲ削
除シ「其審査」ヲ「之」ニ改ム

第十二條ヲ「審査官ニ於テ明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルト
キハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂
正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ
出願ヲ無効トス」ト改ム

第二十五條第二項中「ノ」一方又ハ「ノ」五字ヲ削除ス

第二十七條第一項中「特許局長ハ之ヲ審判部ニ配付シ」ノ十四字ヲ削除ス

第四十一條第一項中「爲ス」ヲ「爲シ」ト改メ其下ニ「改訂特許證ハ第十號書
式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス」ノ三十字ヲ加ヘ第二項中
「又ハ第二十六條」ヲ七字ヲ削除ス

第四十三條第一項中「第十號及第十一號」ヲ「第十一號及第十二號」ト改ム
書式第九號中「改訂特許證」ノ五字ヲ削除シ同書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加ヘ

テ第十號トナス
第十號 改訂特許
証書式

第何號

改訂特許證

本籍(及現住所)

何々(發明ノ名稱)

氏 名

特許條例ニ據リ前記發明ノ請求區域ニ對シ(何某ニ)明治何年何月何日何年間特許ヲ與
ヘタル明細書(圖面)ノ改訂ヲ許可スルヲ以テ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

農商務大臣 氏 名印

特許局長 氏 名印

書式「第十號」ヲ「第十一號」トナシ「第十一號」ヲ「第十二號」トナス

○明治廿二年告示第一號(特許發明ノ明細書同
公報ノ拂下代價)並書類謄本圖面手数料及請
求手續)中改正明治二十四年四月農商務省告示第三號

明治二十二年農商務省告示第一號第四條第五條及第七條左ノ通改正ス
第四條 印刷書類ノ拂下ヲ望ム者ハ賣捌人東京市京橋區八官町十三番地彦
根正三ニ就テ購入スヘシ

明治廿二年農商務
省告示第一號ハ法
令類編第二卷千百
五十四丁ニ載ス

第五條 書類ノ謄本又ハ特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出スヘシ但圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ差出スヘシ尤モ審査用ノ爲メ既ニ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖並明細書ヲ差出シタルモノハ之ヲ添フルニ及ハス

第七條 手数料ハ現金又ハ爲替券ヲ以テ當省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ

○意匠

○意匠條例施行細則中加除改正 明治二十三年八月 農商務省令第八號

意匠條例施行細則
ハ法令類編第二卷
千六百六十一丁ニ載
ス

明治二十二年一月 農商務省令第二號意匠條例施行細則中左ノ通り加除改正ス

第七條ヲ「審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス」ト改ム

第十二條第一項中「爲ス」ヲ「爲シ」ト改メ其下ニ「改訂意匠登録證ハ第九號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス」ノ三十二字ヲ加ヘ第二項中「又ハ第十六條」ノ六字ヲ削除ス

第十四條中「第九號及第十號」ヲ「第十號及第十一號」ト改ム

第十九條中特許條例施行細則ノ下「第十三條」ノ四字ヲ加ヘ第四十九條ノ下「及」ノ字ヲ削除シ第五十條ノ下「及第五十一條」ノ六字ヲ加フ

書式第八號中「改訂意匠登録證」ノ七字ヲ削除シ同書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加ヘテ第九號トス

第九號 改訂意匠登録證書式

第何號

改訂意匠登録證

本籍(及現住所) 氏 名

何々(意匠ノ名稱) 氏 名

意匠條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル登録意匠ニ對シ本證附屬明細書圖面ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年 月 日

農商務大臣 氏 名印

特許局長 氏 名印

書式「第九號」ヲ「第十號」トシ「第十號」ヲ「第十一號」トス

○商標

○商標條例施行細則中加除改正 明治二十三年八月 農商務省令第九號

商標條例施行細則
ハ法令類編第二卷
千七百七十二丁ニ載
ス

明治二十二年一月 農商務省令第三號商標條例施行細則中左ノ通り加除改正ス

第六條「審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正見本又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ
此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス」ト改ム
第十一條第一項中「爲ス」ヲ「爲シ」ト改メ其下ニ改訂商標登錄證ハ第七號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス」ノ三十二字ヲ加ヘ第二項中「又ハ第十六條」ノ六字ヲ削除ス
第十二條中「第七號」ヲ「第八號」ト改ム
書式第六號中「改訂商標登錄證」ノ七字ヲ削除シ同書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加ヘテ第七號トス
第七號 改訂商標登錄證書式

第何號

改訂商標登錄證

本商(及現住所)
營業名
氏 名

商標條例ニ據リ明治何年何月何日(何某ニ)登錄ヲ許可シタル商標ニ對シ本附附明細書見本ノ逆改訂ヲ許可スルモノ也

年 月 日

農商務大臣 氏 名印

特許局長 氏 名印

書式「第七號」ヲ「第八號」トス

○銀行

○日本銀行條例第十九條第二十條改正 明治二十三年八月十一號
法律第六十一號

日本銀行條例ハ法令類編第二卷千百八十三丁ニ載ス

朕日本銀行條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

日本銀行條例中左ノ通改正ス
第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス
理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ招集ス

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルハ臨時株主總會ヲ招集ス
總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的

ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス
 株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限
 ル
 株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコ
 トヲ得ス
 株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十
 株毎ニ一箇ノ投票權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ關
 スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

○銀行條例 明治二十三年八月
 法律第七十二號

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨ
 リ施行スヘキニトヲ命ス

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事
 業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用非ルニ拘ラス
 總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由
 シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ毎半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣
 ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ毎半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以
 テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ハ一人又ハ一會社ニ對シ資本金高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額
 ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第十時ヨリ午後第四時マテトス但營業ノ都
 合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ
 休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他
 ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ
 業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ
 營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中

若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條 検査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行横濱正金銀行國立銀行ニ適用ス

○貯蓄銀行條例 明治二十三年八月 法律第七十三號

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス 銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス 但共責任ハ退任後一箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本金ノ半額ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一 貸付

第二 證券ノ割引

第三 國債證券及地方債證券ノ買入

第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ國債證券地方債證券ヲ質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力ニ付疑フヘキ理由ノ存セサル者二名以上ノ裏書アル爲替手形ニ限ルヘシ 貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期買買ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

○商業會議

○商業會議所條例 明治二十三年九月 法律第八十一號

朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商業會議所條例

第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ商法第四條ニ掲ケタル商取引ノ各部類ニ屬スル商人及作業人ヲ謂フ

第二條 商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ナルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徵シ尙ホ自己ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條 會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得

第四條 會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方策ヲ議定スルコト
- 二 商業ニ關スル法律規則ノ制定改正廢止及施行方法其他商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ官廳ニ開申スルコト
- 三 商業ノ實況及其統計ヲ官廳ニ報告スルコト
- 四 商業ニ關スル事項ニ付官廳ノ諮問ニ應答スルコト
- 五 法律命令若クハ官ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所仲立人組合及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト
- 六 仲立人ノ資格員數及手數料ヲ審査スルコト
- 七 關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト
- 第五條 會議所設立地ノ商業者ニシテ所得稅ヲ納ムル者ハ會員ノ選舉權ヲ有ス
- 第六條 會議所設立地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者ニシテ年齡三十歲以上ノ男子及商事會社ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス
- 第七條 第五條及第六條ノ規定中會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ省令ヲ以テ特ニ其所得稅ノ等級ヲ定メ又ハ他ノ國稅ヲ加フルコトヲ得
- 第八條 左ニ掲ケル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 瘋癲白癡ノ者

二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪、財産ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者

三 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 會員當選者ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條 會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス

前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者メルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其他ノ地方稅收入役ニ囑シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 會員選舉規則

二 議事規則

三 庶務規程

四 役員職務權限

五 中裁規則

六 會計規則

七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則

第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリ

ト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部

又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ

發スヘシ

○商業會議所條例施行規則 明治二十三年九月 農商務省令第十二號

商業會議所條例施行規則左ノ通相定ム

商業會議所條例施行規則

第一條 商業會議所設立ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會員選舉規則及ヒ設立費用ノ豫算ヲ添ヘ認可ヲ請クヘシ

一 會議所ノ名稱

二 設立地ノ區域

三 設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者及被選舉權ヲ有スル者ノ概數

四 會員ノ定數

第二條 設立認可ヲ得タルトキハ發起人ニ於テ其旨公告シ商業會議所條例

第五條及ヒ第六條ニ依リ會員選舉人及被選舉人ノ名簿ヲ六十日以内ニ調

製シ認可ニ係ル書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ會員選舉ノ施行ヲ求

ムヘシ但設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ建設スヘキ地ノ郡

長若クハ市長ニ請求スヘシ

第三條 會議所設立發起人又ハ會議所ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲナシタル

トキハ郡長若クハ市長ハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五

日以上ノ豫告ヲナシ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第四條 第一條ノ申請書ニ依リ認可ヲ得タル會員ノ定數會員選舉規則及第

二條ニ依リ調製シタル會員選舉人及被選舉人名簿ハ會議所定款認可ノ日

マテ効力ヲ有スルモノトス

第五條 會議所又ハ其ノ設立發起人ニ於テ會員選舉人及被選舉人名簿ヲ製スルキ其ノ納稅額並年齡ノ調査ニ付テハ地方長官ノ證明ヲ受クヘシ
 第六條 會議所ノ定款ハ會員選舉ノ後六十日以内ニ議定シテ認可ヲ請クヘシ

○商業會議所條例中所得稅等級明治廿三年十月農商務省令第十七號

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ明治二十年三勅令第五號所得稅法第四條ノ第四等以上トス

○商業會議所會員ノ選舉ヲ終リタル中部長市

長施行手續明治二十三年十二月農商務省訓令第六十八號

府縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十三年九月農商務省令第十二號商業會議所條例施行規則第三條ニ依リ會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ選舉ヲ施行シタル郡長若クハ市長ヲシテ左ノ手續ヲ執行セシムヘシ

- 一 會員當選者ニ當選ノ通知書ヲ交付スヘシ但商事會社ニハ通知書ヲ交付スルト同時ニ其代表人ノ氏名ノ届出ヲ命スヘシ
- 二 選舉ニ關スル書類物件ハ會議ニ引續クヘシ

- 三 最初ノ選舉ヲ施行シタルトキハ其選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以内ニ時日場所ヲ指定シ會員當選者ヲ召集シ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

第三十一類 民事

○民法

○民法財産取得編同人事編 明治二十三年十月
法律第九十八號 (別冊)

ト爲シ茲ニ畧之

○増價競賣法 明治二十三年十月
法律第九十二號

朕増價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

増價競賣法

第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ増價競賣ヲ要求スル債權者ハ第三所持者及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタルヨリ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且保證人又ハ擔保ノ認許ヲ求ム可シ

前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス

第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲グル諸件ノ外第三所持者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ具備シ且民事訴訟法第六百

四十三條第三號乃至第五號ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ擔保ノ許否ニ付テノ決定ヲ爲スコシ

否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求ヲ爲ス權利アル他ノ債權者カ要求ニ参加スルノ申立ヲ爲シ又ハ期日ニ自ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知ルヨリ三日内ニ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條 左ニ掲クル者ヲ增價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

第一 競賣要求者

第二 債務者

第三 所持者

第四 抵當債權者

第五 抵當財産ノ前所有者カ債務者ニ非サルトキハ其前所有者

第五條 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保ヲ十分ナリトスルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競賣期日ヲ定メテ公告スコシ

第六條 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號乃至第十號ニ掲クル諸件ノ外增價競賣ノ要求ニ因リ競賣ヲ爲ス旨及ヒ最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタル増額ヲ具備スル

コトヲ要ス

此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條、第六百七十二條第二號及ヒ第四號乃至第八號、第六百七十三條、第六百七十四條第六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス

第七條 競賣期日ニ於テ許スコキ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求者ヲ競落人ナリト言渡スコシ

第八條 競落人ナリト言渡サレタル者カ要求者ナルト否トヲ問ハス競落代價ノ全額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カルルコト無シ

第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スコシ前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七百五條ノ規定ヲ適用ス

第十條 增價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ增價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ許サス

○裁判上代位法 明治二十三年十月 法律第九十三號

朕裁判上代位法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一

日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

裁判上代位法

第一條 民法財産編第三百三十九條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ屬スル訴權ヲ行ハントスル債權者ハ先ツ債務者ニ其行使ヲ合式ニ催告スルコトヲ要ス債務者右催告ヲ受ケタル後ハ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第二條 債務者前條ノ催告ヨリ七日内ニ被告ト爲ル可キ第三者ニ對シテ訴ヲ提起セザルトキハ債權者ハ債務者ノ住所地ノ裁判所ニ代位申請ヲ爲スコトヲ得但催告書ノ謄本ヲ差出ス可シ

第三條 代位ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者、被告ト爲ル可キ第三者及ヒ裁判所ノ表示

第二 代位申請ノ原因タル債權ノ表示

第三 訴訟物ノ表示

第四條 裁判所ハ申請ニ付キ債務者ヲ審訊セスシテ決定ヲ爲スコトヲ得右ノ申請ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○財産委棄法 明治廿三年十月 法律第九十四號

朕財産委棄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

財産委棄法

第一條 無資力ナル債務者ニシテ惡意ノ證ナキ者ハ動産又ハ不動産ノ差押ヲ受ケタルモ競賣ニ至ルマテハ無資力ノ原因タル不幸ノ事情又ハ管理ノ過失ヲ陳述シテ債權者ニ對シ自己ノ財産ノ委棄ヲ其住所地ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得

債務者ハ總債權者ノ氏名及ヒ分限ト各債權者ノ債權ノ元本及ヒ利息トヲ右請求ニ附記スルコトヲ要ス

第二條 財産ノ委棄ハ協諾契約ニ關シ商法ニ規定シタル方式及ヒ條件ニ從ヒテ債權者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 債權者ノ承諾シタル財産ノ委棄ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

此他財産ノ委棄ニ付テハ家資分散ニ關スル法律ノ適用ヲ妨ケス

○非訟事件手續法 明治二十三年十月 法律第九十五號

朕非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

非訟事件手續法

第一章 認可及ヒ許可ノ申請手續

第一條 民法ノ規定ニ從ヒ區裁判所ノ認可又ハ許可ヲ求ムル申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申請ニ付テハ裁判所ハ事情ニ從ヒ利害關係人ノ出頭又ハ當事者ノ自身出頭ヲ命シ公開セサル法廷ニ於テ審訊スルコトヲ得

第三條 申請ニ付テノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二章 失踪事件ニ關スル請求手續

第四條 失踪ノ推定、宣言又ハ財産占有其他ノ請求ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

請求ニハ其理由トスル事實ヲ表示シ且證據書類アルトキハ之ヲ添付ス可シ

第五條 前條各種ノ請求ハ之ヲ併合スルコトヲ得

第六條 失踪ノ推定又ハ宣言ノ請求ニ付テハ前二條ノ外尙ホ左ノ手續ニ從テ

裁判所ハ請求ニ表示シタル事實ヲ調査シ職權ヲ以テ失踪ノ推定又ハ宣言ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ定ムル爲メ證人訊問ヲ命ス可シ

證人ノ訊問及ヒ宣誓ニ付テハ忌避ノ規則ヲ除ク外民事訴訟法第二編第一章第六節ノ規定ヲ適用ス

第七條 檢事ハ證人訊問ニ立會ヒ決定前ニ其意ヲ陳述ス可シ

第八條 失踪ノ推定又ハ宣言ヲ言渡ス決定ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ公示ス可シ

此決定ニ對シテハ請求者又ハ檢事ヨリ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得失踪者ノ定置キタル總理代理人モ亦同シ

第九條 失踪事件ノ請求ニ關スル費用ハ其推定又ハ宣言ヲ言渡シタルトキハ本人ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨シ若シ之ヲ言渡ササルトキハ請求者之ヲ負擔ス但檢事請求ヲ爲シタルトキハ本人ノ負擔トス

第三章 相續ノ限定受諾ニ關スル手續

第十條 限定受諾者ハ適法ノ期間内ニ相續財産拂盡ノ計算ヲ完了シ其計算書ヲ相續地ノ區裁判所ニ差出ス可シ

第十一條 利害關係人ハ自己ノ費用ヲ以テ區裁判所ニ計算書ノ閱覽及ヒ其謄本ノ下付ヲ求ムルコトヲ得

第十二條 法律上又ハ裁判上相續財産ヲ管理スル者ハ限定受諾者ト同シク計算完了ノ責ニ任ス

第四章 國ニ囑スル相續財産收領ノ手續

第十三條 相續人アラサル財産アルトキハ相續地ノ行政官廳ハ財産所在地ノ區裁判所ニ其引渡ヲ請求ス可シ

第十四條 財産引渡ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ事實ヲ調査シ其請求ヲ公示ス可シ

第十五條 公示ハ左ノ諸件ヲ具備シ請求ヲ受ケタル區裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス可シ

第一 被相續人ノ氏名、職業、住所、居所及ヒ死亡ノ年月日

第二 財産引渡ノ請求ノ要領

第十六條 民法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有スル者ハ公示ノ日ヨリ六个月内ニ行政官廳ノ請求ニ對シ其請求ヲ受ケタル裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第十七條 前條ノ期間内ニ異議ノ申立アラズ又ハ其申立ヲ不當ト爲ス裁判確定シタルトキハ裁判所ハ民法財産取得編第三百四十六條ノ規定ニ從ヒテ保存スル供託所ノ金額領收證ヲ請求者タル行政官廳ニ交付ス可シ

第五章 財産ノ封印及ヒ目錄調製ノ手續

第十八條 財産ノ封印ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財産所在地ノ區裁判所判事之ヲ爲ス

封印ニハ官印ヲ用ユ可シ

第十九條 封印ヲ爲ス可キ財産カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ區裁判所判事ハ市町村長ニ囑託シテ封印ヲ爲サシムルコトヲ得封印ノ除去及ヒ財産目錄ノ

調製ニ付テモ亦同シ

囑託ヲ受ケタル市町村長ニ付テモ下數條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 封印ハ證人二人立會ノ上之ヲ爲ス可シ

封印ヲ請求シタル者ハ其封印ニ立會フコトヲ得

第二十一條 封印ヲ爲シタルトキハ直チニ調書ヲ作り立會人之ニ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ區裁判所判事ハ其事由ヲ附記ス可シ

第二十二條 調書ニハ左ノ諸件ヲ具備ス可シ

第一 封印ヲ請求シタル者ノ氏名、職業及ヒ住所

第二 封印ノ理由

第三 封印ヲ爲シタル場所及ヒ物

第二十三條 日用品其他封印ヲ附セサル物アルトキハ之ヲ調書ニ略記ス可シ

第二十四條 封印ヲ附シタル物ニ鎖鑰アルトキハ之ヲ閉鎖シテ封印除去ニ至ルマテ區裁判所書記課其鑰ヲ預ル可シ

第二十五條 封印ヲ終リタルトキハ其財産ノ保管人ヲ命ス可シ但保管人ハ成年者タルコトヲ要ス

第二十六條 區裁判所判事封印ノ請求ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ爲ス可シ

若シ後レタルトキハ其理由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 封印ノ調書ハ判事ト同伴シタル書記之ヲ二通ニ作り其一通ハ
區裁判所ノ書記課ニ保存シ他ノ一通ハ封印請求者又ハ保管人ニ交付シ受
領證ヲ取置ク可シ

第二十八條 何人ニ限ラス區裁判所判事ヨリ封印ノ立會ヲ求メラレタル者
正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムトキハ刑法第七十九條ニ掲ケタル刑ニ處
ス

第二十九條 封印ノ除去ヲ請求スル權利ヲ有スル者左ノ如シ

第一 封印ヲ請求スル權利ヲ有スル者

第二 財産ノ管理人

第三十條 封印ノ除去ハ豫メ其日時ヲ定メ既ニ知レタル利害關係人及ヒ財
産ノ管理人ニ之ヲ通知スヘシ

通知ヲ受ケテ封印除去ノ異議ヲ申立テス且除去ニ立會ハサル者ハ其除去
ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三十一條 封印ハ一箇ノ物ニ付キ之ヲ除去シ其目錄ヲ作り了リタル後ニ
非サレハ次ノ物ニ付キ之ヲ除去スルコトヲ得ス

第三十二條 封印ノ除去ハ封印ヲ爲ス時ト同シク證人立會ノ上之ヲ爲ス可
シ

第三十三條 左ニ記載シタル者ハ封印ノ除去ニ付キ異議ヲ申立ルコトヲ得

第一 利害關係人

第二 財産ノ管理人

第三 檢事

第三十四條 封印ヲ除却シタルトキハ第二十一條ノ規定ニ從ヒ直チニ其調
書ヲ作ルヘシ

第三十五條 調書ニハ左ノ諸件ヲ具備ス可シ

第一 封印除去ノ異議アラサリシコト又異議アリタルトキハ其異議申立
ノ却下セラレ又ハ之ヲ取下ケタルコト

第二 封印ヲ爲シタルヨリ之ヲ除去スルニ至ルマテ其封印ノ何等ノ變更
ヲ來セシトキハ其事情

第三十六條 封印ヲ爲シ及ヒ之ヲ除去スル費用ハ其財産ノ負擔トス

第三十七條 封印除去ノ異議ハ其封印ヲ爲シタル區裁判所ニ之ヲ申立ツ可
シ

異議申立ニハ申立人ノ關係及ヒ申立ノ理由ヲ包含ス可シ

第三十八條 異議ヲ申立テタルトキハ其申立ノ却下セラレ又ハ之ヲ取下ケ
タル後ニ非サレハ封印ノ除去ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 封印除去ノ異議ハ其除去ニ著手シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 異議申立ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第四十一條 財産目録ハ財産ニ封印アルトキハ其除去ノ際公證人ヲシテ之ヲ作ラシム可シ

第四十二條 財産目録ハ左ノ各人ヲ適法ニ呼出シ區裁判所判事ノ面前ニ於テ之ヲ作ル可シ

第一 知レタル利害關係人

第二 財産管理人

第三 檢事

第四十三條 目録ニハ左ノ諸件ヲ具備スヘシ

第一 適法ニ呼出サレタル人

第二 出席シタル者及闕席シタル者

第三 各不動産ノ形狀

第四 不動産ノ種類及ヒ數量

第五 證書類

第四十四條 財産目録ニハ立會ヒタル各人署名捺印ス可シ

第四十五條 目録ノ調製ニ關スル費用ハ其財産ノ負擔トス

○辨濟提供規則 明治二十三年十月 勅令第二百十七號

既辨濟提供規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十六年一月一

日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

辨濟提供規則

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レハ辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ調書ヲ作り其調書ニハ提供物金錢ナルルハ其種類員數ヲ記シ特定物ナルルハ他物ニ換ユルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ定量物ナルルハ其種類品質數量ヲ記ス可シ

第三條 右ノ調書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ準用ス

第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金二十錢其他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受クルモノトス

○登記法中改正追加 明治廿三年九月 法律第七十八號

登記法ハ法令類編 第二卷千二百八十一丁ニ載ス

既登記法中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

明治十九年法律第一號登記法中左ノ通改正追加ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ
登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出
シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ

第九條 第一項ノ「命令書」ノ下ニ「又ハ官廳ノ照會書」ノ八字ヲ加フ

第二項ヲ削除シ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ

第十一條中「出頭シテ」ノ四字ヲ削除ス

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出
頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第
十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在
ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應
シ請求者ヨリ之ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕ス
ルコトヲ得

第十五條 第二項中「親屬」ノ下「又」ノ上ニ「二名以上」ノ四字ヲ加フ

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ
第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第二十一條 第一項

地所建物船舶ノ質入書入ニ付テハ亦第十四條ヲ準用ス

第二十三條 書入質入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第
十四條ヲ準用ス

第二十八條ニ左ニ一項ヲ加フ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨ
リ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メ
シメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシ
メ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區
別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下
スコトヲ得ス

第十五條 第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノ
ニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム

第四十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有
權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコ

トテ得

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金壹錢ヲ納メシム

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ

土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ヲ追記ス可シ

○登記法取扱規則 明治廿三年十月 司法省令第七號

本年法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正追加セラレタルニ付明治十九年省令甲第五號ヲ廢シ登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム(書式雛形ハ別ニ頒ツ) 登記法取扱規則

第一章 地所建物船舶ノ登記

第一節 登記簿

第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲ス可シ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出ヲ付ス可シ

市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ分冊スルコトヲ得

第二條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其用紙ヲ表題登記簿用紙中物件ノ關テ設ケタル所ヲ云フ以下準之及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ商法第八百二十六條ノ第一號第二號第三號第四號ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス 其甲區ハ賣買讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ質入書入及ヒ商法第八百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

船舶登記簿ハ第一號書式ニ準シ地所建物ノ登記簿ハ従前ノ例ニ依ル可シ
第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス
登記所ハ一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項
ノ請求ヲ爲ス可シ

第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ職氏名
ヲ署シ職印ヲ捺シ且毎葉ニ契印ス可シ

第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所長ニ
申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已
ニ登記シアル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二節 登記手續

第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押
シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ但商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ受クルモノ
ハ明治二十三年省令第八號第五條ニ從ヒ陳述書ヲ差出スヘシ

登記簿ノ謄本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閲覧ヲ請フ者亦同シ
第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出ス
可シ

代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出ス

可シ

第八條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序
ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第三書式ニ準シ書類ノ受取證
ヲ下付ス可シ

第九條 登記官ハ受付番記ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ登記
ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス場合
ニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲
ス可シ

第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ未ダ物件及ヒ所有者ノ登記アラサ
ルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質
入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ
丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未ダ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ
本條前項ニ準シ物件及所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ
爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ
順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シテ仍ホ地
所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分チ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未ダ登記ヲ爲サハル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ朱抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ

第十四條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入若クハ差押等ヲ爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ登記事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ其質入又ハ書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入質入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號ノ物件ト云フ物件ト連帶シテ書入若クハ質入トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ其書入若クハ質入ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ朱抹ス可シ

第十七條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ合相ノ場又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等權利ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

第十八條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

第十九條 登記法第十五條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財產ナルトキハ請求者ノ申出ニ依リ世襲財產タル旨ヲ表題

部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第二十條 登記法第四十條ノ場合ニ於テハ甲區登記事由欄内ニ從來保有スル所有權ヲ明確ナラシメンガ爲メ登記出願ニ付何々ノ證明書類ニ依リ登記スル旨ヲ記載シ價格及權利移付者ノ欄ヲ朱抹ス可シ

第二十一條 従前ノ公證簿ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徴收セス舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十一條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收ス可キモノトス

第二十二條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲シタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件質入書入又ハ差押等ニ係ルトキハ債主又ハ差押等ノ權利者ノ連印ヲ要ス

地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第二十三條 前條ニ依リ毀壞燒失流亡等ノ届出アリタルトキハ表題部中取消欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ朱抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十三條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中ニ記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收ス

登記法第四十一條ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ變換ノ通知ヲ受タルトキモ亦表題部ノ物件ニ付テ訂正ヲ爲ス可シ

第二十四條 船舶ノ登記ニ付テハ明治二十三年勅令第二百十九號船籍規則第一條ニ依リ定メタル船籍港ヲ管轄スル登記所ヲ以テ定繫場ノ登記所トス

第二十五條 商法ニ依リ爲スヘキ船舶ノ登記ハ明治二十三年省令第八號第六條第七條及ヒ第十條ヲ適用ス

第二十六條 鑑札アル船舶ニ付始メテ登記ヲ請フモノハ其鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限ニ在ラス

商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ請フモノハ船籍證書其他商法ノ規定ニ從ヒ必要ナル證明書類ヲ示ス可シ

第二十七條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫場ヲ更改シタルトキハ登記ノ變更ヲ請フ可シ其登記所ハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ書入質入又ハ差押等トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記ス可シ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨

ヲ記載シテ其物件ハ朱抹ス可シ
 若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ拔書ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ
 前項ノ拔書ニハ現存セル所有權、書入質、差押其他ノ負擔ヲ摘載シ且轉出ノ旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其拔書ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ前項ノ例ニ準シ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ
 前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一號第二號ノ規定ニ依リ變更及ヒ拔書ノ手数料ヲ徵收スルモノトス
 第二十八條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ
 建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數、(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ黒引黒字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ
 建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方之ニ署名捺印ス可シ但同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署ス可シ
 地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第二十九條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ帳簿ニ編入ス可シ
 第三十條 登記ノ爲メ差出シタル原證書ニハ登記簿ノ上登記官吏之ニ登記物件ノ番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ年月日ヲ附シ且登記所ノ印ヲ捺シテ受取證持參人ニ其受取證ト引換ニテ還付ス可シ
 前項ノ記載ヲ以テ登記法第二十條ニ定メタル登記簿ノ證トス但此記載ヲ爲スヘキ證書ナキトキハ物件ヲ記シタル書面ヲ差出サシメ前項ニ準シ登記簿ノ旨ヲ記入シテ本人ニ下付スヘシ
 第三十一條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲ス可キ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サハル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ續ヲ設クルトキ亦此例ニ準ス
 前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順番ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ
 第三十二條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字畫ハ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ數量ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用フ可シ
 登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ

文字ハ之ヲ改竄ス可カラス若シ削除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ登記官吏之ニ認印ス可シ
本條ノ規定ハ受付帳ニモ亦之ヲ適用ス

第三節 帳簿及ヒ謄本拔書

第三十三條 登記簿及ヒ受付帳ノ外登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 登記見出帳
- 二 證書謄本綴込帳
- 三 謄本下付帳
- 四 登記濟證下付帳
- 五 圖面綴込帳
- 六 請求書綴込帳 裁判所又ハ行政廳ノ登記請求書ヲ綴込ミタルモノ
- 七 登記願書綴込帳 登記法第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ
- 八 證明書綴込帳 登記法第四十條ノ證明書ヲ綴込タルモノ
- 九 名刺綴込帳
- 十 代理及ヒ後見ノ證書綴込帳

商法ニ依リ船舶登記ヲ受クル爲メ差出タル書類ハ明治二十三年省令第八號第八條ニ從ヒ之ヲ保存ス可シ
第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テ

ハ十五噸以上及ヒ百五十石以上ハ其船名ニ依リ其以下ノモノハ艦札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス
同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノニ付テハ其分筆ノ爲メニ付シタル符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可シ
同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ
番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ建物ニ子丑寅卯ノ符合ヲ付シテ之ヲ區別ス可シ
前三項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス
第三十五條 登記ヲ請フ爲メ登記法第十四條第二十一條第一項及ヒ第二十三條ニ依リ差出シタル證書ノ謄本ハ甲部乙部ニ別テ綴込ミ各箇ニ番號ヲ付シ且登記簿ノ市町村名冊號及ヒ丁數ヲ記ス可シ其登記簿ニハ相當欄内ニ何部謄本綴込帳第何號ト記入スヘシ
甲部謄本綴込帳ハ登記簿中甲區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス
乙部謄本綴込帳ハ登記簿中乙區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス
謄本綴込簿ハ一箇年ヲ以テ一冊ト爲シ其表紙ニ明治何年分ト記ス可シ但事件夥多ナル登記所ニ在リテハ第一第二ノ符號ヲ以テ一箇年分ヲ分冊シテ綴込ムコトヲ得

第三十六條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記簿下付帳ト割印シテ之ヲ下付スヘシ

第三十七條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ勉テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ

第三十八條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルノ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシム可シ

第三十九條 登記簿ノ謄本若クハ抜書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ抜書ヲ下付スルコトヲ得ス

第四十條 謄本ハ登記簿用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ抜書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第四十一條 登記所ニ出頭セスシテ謄本又ハ抜書ヲ請フ者アルトキハ手数料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ之ヲ送付ス可シ

第四節 登記料手数料及ヒ評價費用

第四十二條 登記印紙ハ名刺又ハ陳述書ニ之ヲ貼用ス可シ但登記官吏ハ貼用印紙ノ過不足ヲ調査シタル後之ヲ消印セシムルコトヲ得

第四十三條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記料ヲ納ムル者ヨリ登記所ノ見積タル費用金額ヲ豫納ス可シ

第四十四條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價ヲ差出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可シ若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ撰定ス可シ

第四十五條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラズ

第二章 特許、意匠及ヒ商標ノ登記

第四十六條 特許、意匠及ヒ商標ノ登記ハ農商務省特許局ノ通知ニ依リ第四號書式ニ準シ之ヲ爲スモノトス

第四十七條 明治二十三年十一月一日以後ニ特許、意匠及 商標ノ登録ヲ受ケ又ハ賣與、讓與、共有、書入ヲ爲シタル者其居住地ヲ轉スルトキハ從前ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ自身ニテ又ハ郵便ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ謄本ヲ作り之ヲ轉住地ノ登記所ニ送付シ登記簿ニ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

其送付ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲シ且轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ附記ス可シ

第四十八條 第三條第四條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十條ハ本章ノ登記ニモ之ヲ適用ス

附則

第四十九條 既ニ登記簿ニ登記シアル船舶ニ付商法第八百二十五條及ヒ商法施行條例第二十九條ニ依リ登記ヲ請フモノアルトキハ登記官吏ハ其登記簿ノ物件欄内ノ餘白ニ商法第八百二十六條ニ規定シタル事項ヲ追記シ年月日ヲ付シ署名捺印ス可シ

○登記印紙ノ種類追加

明治廿三年十月 大藏省令第二十六號

今般法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正相成候ニ付明治二十一年十月本省令第十三號へ左ノ二項ヲ追加ス

- 一 壹錢 印紙ノ種類
- 一 壹錢 茶褐色
- 一 三錢 茶褐色

○農商務省特許局ニテ登録セル特許意匠及商標登記ノ件

明治廿三年十月 農商務省告示第九號

本年九月法律第七十八號ヲ以テ登記法第一條ニ追加規定ノ農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ當省特許局ヨリ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ通知シテ之ヲ爲スヘキニ付本人ニ於テ其登記ヲ登記所ニ請求スルヲ要セス

○商業及船舶ノ登記ニ關スル件追加

明治廿三年 九月勅令第二十七號

朕商業及船舶ノ登記ニ關スル追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本年七月勅令第三百三十三號ニ左ノ一條ヲ追加ス

第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

○商業及船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則

明治廿三年 十月司法省令第八號

商法ノ規定ニ依リ商業及ヒ船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則左ノ通之ヲ定ム(書式ハ別ニ頒ツ)

第一條 商法第十八條ノ商業登記ニ付テハ各登記所ニ左ノ簿冊ヲ備フ可シ

第一 商業登記簿

第二 後見人登記簿

明治廿三年七月勅令第三百三十三號ハ法令類編第三卷第三百一十一類二丁ニ載ス

明治廿一年十月省令第十三號ハ法令類編第二卷第三百七丁ニ載ス

第三 未成年者登記簿

第四 婚姻契約登記簿

第五 代務登記簿

第六 合名會社登記簿

第七 合資會社登記簿

第八 株式會社登記簿

第二條 商法第八百二十五條第八百五十二條及八百五十七條第二項ノ登記ハ商法及ヒ登記法ノ規定ニ依リ船舶登記簿ニ之ヲ爲ス船舶登記簿ノ雛形ハ登記法ニ關スル省令ニ於テ之ヲ定ム

第三條 商業登記簿ハ附錄第二號乃至第九號ノ雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第三條第四條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第四條 登記所ニ於テハ會社印鑑帳及ヒ登記見出帳ヲ調製シ印鑑帳ニハ商法第七十一條ニ依リ差出シタル印鑑ヲ貼付シ登記官吏之ニ契印シ見出帳ニハ商號ニ依リ登記ヲ區別シ以テ索引ノ便ニ供ス可シ

第五條 登記ノ届出ハ陳述書ヲ以テ之ヲ爲シ其陳述書ニハ登記ノ事項ヲ證スル爲メ必要ナル書類ヲ添ヘ左ノ諸件ヲ記載シ當事者之ニ署名捺印ス可シ

シ

第一 登記ヲ受ク可キ事項

第二 當事者ノ住所職業氏名

第三 年月日

第四 登記所ノ名

登記法第八條第二項及ヒ明治二十三年司法省令第七號登記取扱規則第七條第二項ハ本令ニ之ヲ準用ス

第六條 登記ノ届出ハ登記官吏ニ於テ陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ之ヲ終リタルモノトス

登記法第八條第一項ノ受取證ヲ下付シタルトキハ陳述書ヲ受理シタルモノトス

第七條 登記官吏ニ於テ登記ノ届出ヲ不適當ト認ムルトキハ當事者ヲシテ改正セシム可シ之ヲ改正シ得ヘカラサル場合又ハ改正セサル場合ニ於テ登記ヲ拒ムトキハ理由ヲ付シタル命令書ヲ發ス可シ

第八條 登記ヲ受クル爲メ差出シタル書類ニシテ登記所ニ留置ク可キモノ殊ニ登記陳述書及ヒ商法第六十八條ニ掲ケタルモノハ之ニ登記簿ノ冊數及ヒ其丁數ヲ記シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各箇ニ繰込ミ之ヲ保存ス可シ

第九條 登記ハ雛形ニ示ス所ノ例ニ依リ相當欄内ニ之ヲ爲シ年月日ヲ記シ

登記官吏之署名捺印ス可シ

凡テ豫備欄内ニハ商法第七十九條第百三十八條及ヒ第百六十九條ニ列舉シタル以外ノ事項ヲ登記スルモノトス

會社ノ支店登記ノ豫備欄内ニハ合名會社ニ在テハ本店ノ業體、商號、營業所ヲ登記シ合資會社及ヒ株式會社ニ在テハ右ノ外會社資本ノ總額ヲ登記ス可シ

第十條 公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

公告ヲ爲ス可キ新聞紙ハ登記所所在地ニ於テ發行スルモノ若シ其地ニ於テ發行スルモノナキトキハ登記所ヲ管轄スル區裁判所所在地ニ於テ發行スルモノタル可シ

若シ其他ニ於テ發行スル新聞紙ナキトキハ左ノ場所ニ揭示シテ公告ニ代フ可シ

第一 區裁判所ノ揭示場

第二 其地ニ於ケル人民群集ノ場所

登記所ハ新聞紙發行人ト一曆年ノ間商業登記ノ公告ヲ委託スル約定ヲ爲シ豫メ其旨ヲ公告シ置ク可シ

第十一條 明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第三十一條第三十二條ハ本令ニ之ヲ適用ス

登記ノ變更ニ依リ削除ス可キ原登記ハ其側ニ朱線ヲ畫ス可シ

第十二條 商法第八百二十七條ノ船舶登記證書及ヒ同第八百五十四條ノ登記證書ハ附錄第十號及ヒ第十一號ノ雛形ニ依リ之ヲ調製ス可シ

第十三條 登記簿ハ何人ト雖モ之ヲ閱覽スルコトヲ得ルモノトス其閱覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシム可シ

登記簿ノ謄本ヲ請フ者アルトキハ謄本ノ末尾ニ原登記ト相違スルコトナキ旨ヲ認證シ年月日ヲ記シ登記官吏之署名捺印シテ交付ス可シ

遠隔ノ地ヨリ謄本ヲ請フ者アルトキハ謄本手数料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ亦之ヲ送付ス可シ

第十四條 商業登記ニ關スル登記所ハ東京市ニ在テハ京橋區裁判所トス

第十五條 明治二十三年勅令第三百三十三號ニ定メタル商業及船舶ノ登記公告手数料ハ登記印紙ヲ陳述書若シ陳述書アラサルトキハ明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第六條ニ依リ名刺ニ貼付スヘシ

登記簿ノ謄本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

○戸籍

○戸籍登記書式中改正追加 明治二十四年六月 內務省訓令第十一號

北海道廳 府縣

明治十九年十月内
務省訓令第二十號
ハ法令類編第二十卷
千二百四十一丁ニ
載ス

明治十九年十月内務省訓令第二十號戸籍登記書式中登記目録書式第十四管内
送入籍ノ部第五名ノ上「婦」ヲ「養女」ト改メ事項中「應家ノ上ノ下」ニ「夫妻共ノ」
三字ヲ挿入ス又同第七項中平民氏名ノ下「養孫」ヲ「養子」携帶ト改ム

○有位者改姓名貫屬換轉居及死亡ノトキ爵位
局へ届出方 明治二十四年六月
宮内省達乙第一號

自今改姓名貫屬換及轉居ハ其都度本人ヨリ死亡ハ相續人又ハ親屬ヨリ直ニ
當省爵位局へ届出ツヘシ 有位者一般(華族ヲ除ク)

○有位者族籍現住地等爵位局へ届出書式 明治
四年六月宮内
省達乙第三號

有位者(華族ヲ除ク)ハ左ノ書式ニ依リ來ル七月二十四日マテニ當省爵位局へ届出
ツヘシ 書式

右御届仕候也
年 月 日
爵位局御中
北海道釧路府士族又ハ平民
北海道釧路府釧路市町村番地現住
氏 名
生年月日
位 勳 氏 名 印

第三十二類 訴訟

○裁判所

○裁判所位置及管轄區域改定 明治二十三年八月
法律第六十二號

朕裁判所位置及管轄區域表ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ裁判所構
成法實施ノ日ヨリ效力ヲ有ス
裁判所位置及管轄區域別表ノ通改定ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣
之ヲ定ム(別表略之)

○地方裁判所支部及其管轄區域裁判所 明治二十三
年八月司法

省令第
三號

明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法第三十一條ニ依リ地方裁判所支部
及其管轄左表甲乙號ノ通相定メ甲號支部ニ於テハ重罪公判及民事第二審ヲ
除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ關スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム
但本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ實施ス